

# 小山市経済動向実態調査

(平成 30 年度最終報告書)

平成 31 年 3 月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査  
(平成 30 年度最終報告書)

目次

要旨	1 頁
I. 小山市景気動向アンケート調査結果(平成 30 年度第 2 回)	3 頁
1. 調査の目的	3 頁
2. 調査対象・調査内容	3 頁
3. 調査結果	6 頁
II. 小山市経済動向ヒアリング	23 頁
III. まとめ	28 頁
(参考資料)	
1. 小山市景気動向アンケート調査票 (平成 30 年度第 2 回)	30 頁
2. 小山市景気動向アンケート調査 (平成 30 年度第 2 回) の回答一覧	34 頁
3. 小山市景気動向アンケート調査 (時系列データ)	51 頁

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究運営委員	吉川 薫
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究運営委員	西谷勢至子
白鷗大学ビジネス開発研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力) 白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	
	小笠原 伸

## 小山市経済動向実態調査 (平成30年度第2回小山市景気動向アンケート調査結果)

平成31年3月  
白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心に経済動向を把握するため、平成14年度以降小山市経済動向実態調査を実施している。平成30年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査2回(6月と12月)とヒアリング調査(2月)を実施した。本報告書は平成30年度小山市景気動向アンケート調査(第2回)の調査結果およびヒアリング調査結果をまとめた平成30年度小山市経済動向実態調査の最終報告書である。

### 要旨

平成30年12月から平成31年1月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(平成30年度第2回)」の結果をみると、平成30年下半年(30年7～12月期)の小山市の景気の現状(水準)をきいた質問の回答では、「やや良い」が減少し、「やや悪い」が増加したことなどから、DI値<sup>1</sup>では51.6%と前回調査(平成30年6月、以下同じ)の55.4%から低下したが、3期連続で50%を超えた。「やや悪い」という回答の理由としては、「商店街の人通りが少ない」、「企業の忘年会が減少し、外食の機会も減少している」などが、「どちらともいえない」という回答の理由としては、「上半期とあまり変わらない」、「購買意欲を感じない」などがあがっている。小山市の景気の先行き(31年1～6月の見通し)については、前回調査に比べると、「やや良くなる」が増加し、「変わらない」が減少したことなどからDI値では55.0%と前回(52.0%)から上昇し、5期連続で50%以上となった。回答の理由としては、「やや良くなる」と回答した企業では、「消費税増税がらみの景気対策と東京オリンピックのための整備の影響」「新興住宅地などが増えてきている」などが、「変わらない」と回答した企業では、「中小企業の景況が改善しない」、「消費税前の影響は夏以降と予測され、上期は状況が変わらないと思う」などがあがっている。一方、「やや悪くなる」と回答した理由では「米中摩擦による株価の下落」「若者の消費活動が低迷している」などがあがっている。

---

<sup>1</sup> 回答(%)の「良い」を1、「やや良い」を0.75、「どちらともいえない」を0.5、「やや悪い」を0.25、「悪い」を0として、構成比で加重平均したもの。

自己の企業や業界の売上金額の増減についての回答をみると、平成30年下半期（7～12月期）は平成30年上半期（1～6月期）に比べ「増加した」が増加し「やや減少した」が減少したことなどから、D I値は51.6%と上昇し、2期ぶりに50%を上回った。「増加した」理由としては、「住宅購入が増加」（不動産・住宅業）、「増税を控え、リフォーム関係の売上げが伸びた」（小売業）などがあがっている。先行き（来半期）の売上高見通しのD I値は53.3%と前回（52.7%）よりやや上昇し、3期連続で50%を超えた。

平成31年上半期（1～6月期）の業界の販売価格の見通しについては、平成30年下半期（7～12月期）に比べて、「低下する」、「やや低下する」、「やや上昇する」がいずれも増加し、「変わらない」が減少したことなどから、D I値では48.9%と前回（49.3%）から低下し、2期連続で50%を下回った。平成31年上半期（1～6月期）の雇用見通しについては、平成30年下半期（7～12月期）に比べて、「不足」、「やや不足」が増加し、「横ばい」、「やや過剰」が減少したことなどからD I値は64.8%と前回（54.7%）から上昇し、2期ぶりに60%を超えた。なお、資金繰りの状況については、今回調査ではD I値は54.4%と前回（52.6%）からやや上昇した。「やや改善した」理由としては、「売上高の変化」などが多くなっている。また、平成30年度の賃金等の状況をみると、前回調査と比べて「定期昇給の実施」、「ボーナスの増額」が増加し、「ボーナス以外の手当の増額」は減少した。

今回のアンケート調査で追加質問した「SNSやネット販売の活用」に関する質問については、「どちらも活用していない」（54.5%）が最も多く、次いで「ネット販売のみ活用している」（20.5%）、「SNSのみ活用している」、「SNSとネット販売の両方を活用している。」は9.1%となっている。

ヒアリング調査では、業種や企業により、好調、横ばい、減収と様々な声があったが、製造業を中心に昨年秋、あるいは今年に入って変化がみられ、米中貿易摩擦の影響による中国向け輸出の大幅減少の影響で今年の景気の先行きは厳しいとの声が多かった。

以上のように、平成30年下半期（7～12月期）の小山市の景況感をみるとアンケート調査では現状について前回調査からやや悪化し、先行きについてはやや改善が期待されているが、ヒアリング調査では米中貿易摩擦の影響が表れてきており、先行き懸念の声があった。販売価格の見通しについては、D I値が2期連続で50%を下回るなど、今年の上期は販売価格が上がらないとみられている。雇用見通しについては人手不足感が強まっている。「SNSやネット販売の活用」に関しては、「両方とも活用している」は1割未満で、「両方とも活用していない」との回答が50%を超えている。

## I. 小山市景気動向アンケート調査結果（平成 30 年度第 2 回）

### 1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

### 2. 調査対象・調査内容

#### 2-1) 調査対象

平成 30 年 12 月から平成 31 年 1 月にかけて、小山市内の企業<sup>2</sup> 120 社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、45 社から回答を得た。回収率は約 38%である。

（回答企業の業種別構成）

（図表 1） 回答企業の業種別構成（ ）内は前回（平成 30 年 6 月）調査

業種	社数	業種	社数
流通業（小売等）	17 社（10 社）	通信・放送業	1 社（1 社）
製造業	8 社（5 社）	不動産・住宅業	1 社（3 社）
金融・保険業	2 社（1 社）	サービス業	7 社（11 社）
運輸業	3 社（2 社）	印刷業	1 社（1 社）
ホテル・旅行業	2 社（2 社）	不明	1 社（2 社）
飲食業	2 社（0 社）		
		合計	45 社（38 社）

前回調査（平成 30 年 6 月）に比べ、

増加した業種：流通業、製造業、金融・保険業、運輸業、飲食業

減少した業種：不動産・住宅業、サービス業、不明

<sup>2</sup> これまで調査に回答していただいた企業を中心に製造業を含め 120 社程度を対象。

(回答企業の従業員規模別の構成)

(図表 2) 回答企業の従業員数

従業員数 (人)	企業数 (社)	構成比 (%)
1～4	10	22 (21、14)
5～9	4	9 (11、7)
10～19	7	16 (16、16)
20～29	2	4 (5、7)
30～49	3	7 (8、7)
50～99	10	22 (13、28)
100 以上	8	18 (18、21)
不明	1	2 (8、0)
計	45	100 (100、100)

(注) 構成比の ( ) 内は左が前回調査 (平成 30 年 6 月)、右が前々回調査 (平成 29 年 12 月) の構成比。(個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100 にならないことがある。)

前回調査 (平成 30 年 6 月) に比べ、

構成比が 2%ポイント以上上昇した従業員規模 : 50～99 人

構成比が 2%ポイント以上減少した従業員規模 : 5～9 人、不明

(回答企業の年間売上高規模別の構成)

(図表 3) 回答企業の売上高

売上高 (円)	企業数 (社)	構成比 (%)
3,000 万未満	8	18 (16、9)
3,000 万～1 億未満	5	11 (13、14)
1 億～5 億未満	11	24 (21、26)
5 億～10 億未満	4	9 (11、14)
10 億以上	8	18 (18、30)
不明	9	20 (8、7)
計	45	100 (100、100)

(注) 構成比の ( ) 内は左が前回調査 (平成 30 年 6 月)、右が前々回調査 (平成 29 年 12 月) の構成比。(個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100 にならないことがある。)

前回調査 (平成 30 年 6 月) に比べ、

構成比が 2%ポイント以上上昇した年間売上高規模 :

3,000 万未満、1 億～5 億未満、不明

構成比が 2%ポイント以上低下した年間売上高規模 :

3,000 万～1 億未満、5 億～10 億未満

(回答企業の小山市内における売上割合)

(図表 4) 回答企業の小山市内における売上割合

小山市内の売上割合 (%)	企業数 (社)	構成比 (%)
80～100	12	27 (34、28)
60～80	11	24 (24、16)
40～60	8	18 (11、14)
20～40	4	9 (11、14)
0～20	7	16 (20、21)
不明	3	7 (0、7)
計	45	100 (100 100)

(注) 構成比の ( ) 内は左が前回調査 (平成 30 年 6 月)、右が前々回調査 (平成 29 年 12 月) の構成比。(個々の構成比の四捨五入の関係で合計が 100 にならないことがある)

小山市内の売上割合が 60%以上の計 : 23 社 (51%) (前回調査 : 58%)

## 2-2) 調査内容

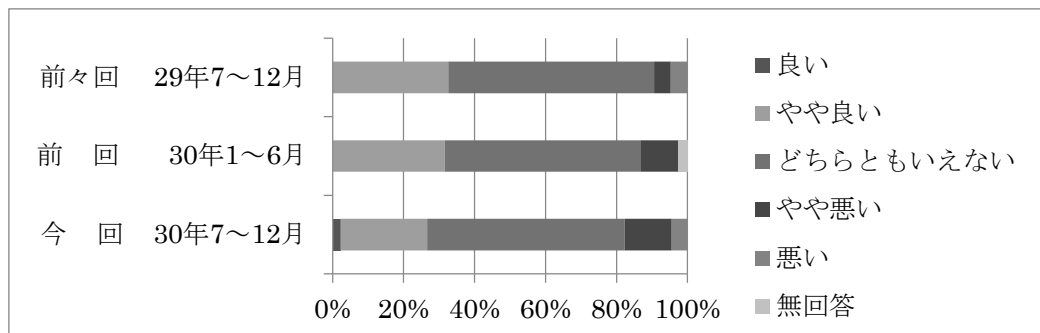
今回の調査項目は、景況感に関わる従来からの質問項目および平成 30 年度の主な従業員の賃金等の状況に関する質問項目に加え、SNS とネット販売の活用に関する質問事項からなっている。

- 質問 1 小山市の景気の現状(水準)
- 質問 2 質問 1 の回答理由
- 質問 3 小山市の景気の先行き見通し
- 質問 4 質問 3 の回答理由
- 質問 5 業界の売上金額の変化
- 質問 6 質問 5 の回答理由
- 質問 7 業界の売上高見通し
- 質問 8 質問 7 の回答理由
- 質問 9 業界の販売価格見通し
- 質問 10 業界の雇用状況の見通し
- 質問 11 資金繰りの状況
- 質問 12 質問 11 の回答理由
- 質問 13 平成 30 年度の主な従業員の賃金等の状況
- 質問 14 質問 13 の回答理由
- 質問 15 SNS やネット販売の活用状況

### 3. 調査結果

#### 3-1) 全般的な小山市の景気

(図表 5) 質問 1 小山市の景気の現状(水準)

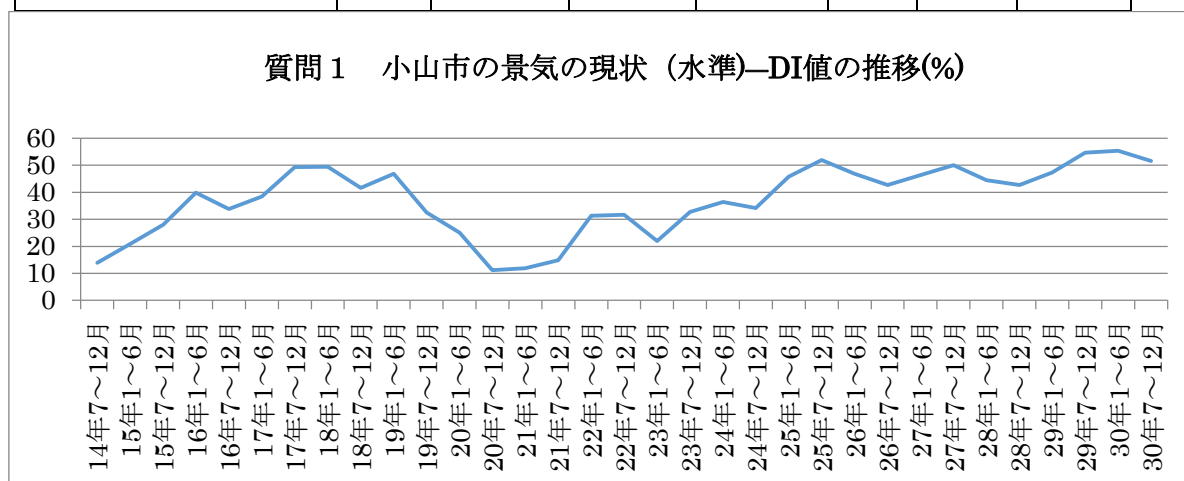


(注) グラフでは「良い」が左側 (以下の横棒グラフも同じ)。

DI 値は回答 (%) の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 とし、構成比 (無回答を除く) で加重平均したもの。以下の質問でも同じ。

(%)

	良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI値
前々回 29年7～12月	0	32.6	58.1	4.7	4.7	0	54.7
前回 30年1～6月	0	31.6	55.3	10.5	0	2.6	55.4
今回 30年7～12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0	51.6



前回調査(平成 30 年 6 月)に比べ、

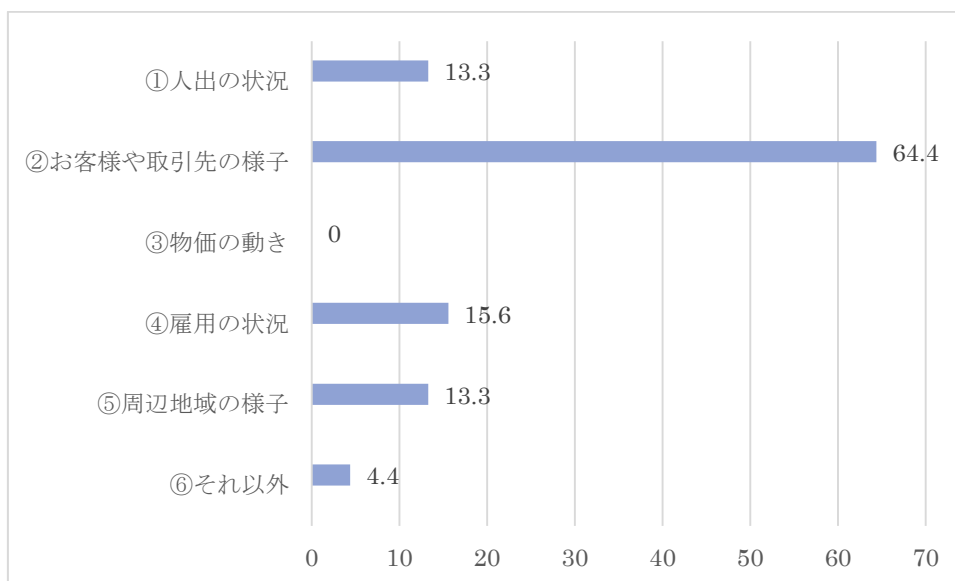
3%ポイント以上増加: 「悪い」 (+4.4)

3%ポイント以上減少: 「やや良い」 (-7.2)

DI 値: 51.6 (-3.8) に低下 (3 期連続 50%以上)



(図表 6) 質問 2-1 質問 1 の回答の判断理由 (%)



質問2-1 質問1の回答の判断理由 (%)

質問1	質問2-1 ①小山市の 人出の状況	②お客様や 取引先の様子	③物価の 動き	④雇用の 状況	⑤周辺地域 の様子	⑥それ 以外	無回答
良い	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い	2.2	11.1	0.0	11.1	2.2	2.2	0.0
どちらともいえない	8.9	37.8	0.0	4.4	8.9	2.2	0.0
やや悪い	2.2	8.9	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0
悪い	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	13.3	64.4	0.0	15.6	13.3	4.4	0.0

(注) 45社に対する比率、複数回答があり、合計は100%にならない。

質問 2-1 「⑥それ以外」の具体的な内容は、「市内の商売がないため」、「同業の企業の様子をみて」など。

## 質問 2-2

### 質問 2-1 の具体的な回答内容

「良い」:

- ・「工場の稼働率が上昇し、それに伴い外注先への取引量も増えて全体的にモノの流れが増加している」(お客様や取引先の様子)

「やや良い」:

- ・「前向きな設備投資をするお客様が増えてきた」(お客様や取引先の様子)
- ・「求人数増加」(雇用の状況)

「どちらともいえない」:

- ・「上半期とあまり変わらない」(お客様や取引先の様子)
- ・「購買意欲を感じない」(お客様や取引先の様子、周辺区域の様子) など

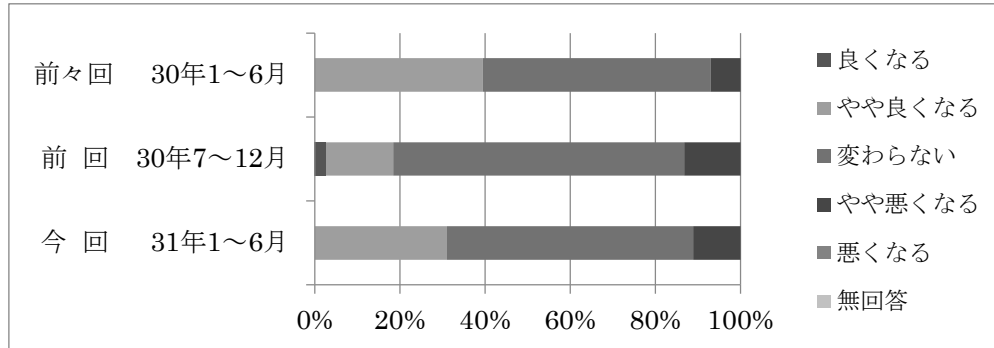
「やや悪い」:

- ・「商店街の人通りが少ない」(周辺区域の様子)
- ・「企業の忘年会が減少し、外食の機会も減少している」(お客様や取引先の様子)

「悪い」:

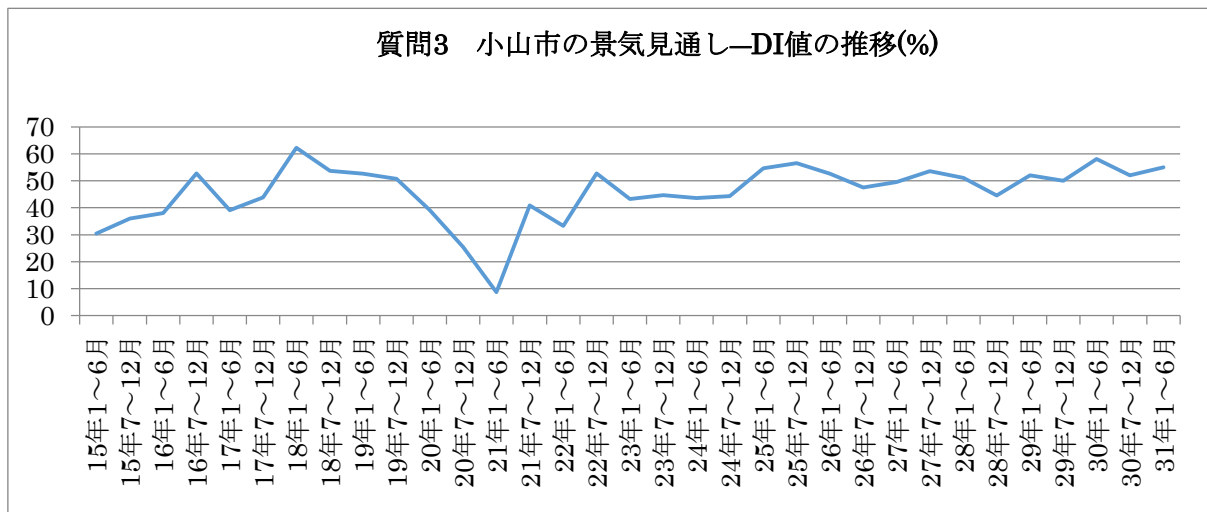
- ・「高額商品が売れない」(お客様や取引先の様子) など

(図表7) 質問3 平成31年上半期(1~6月期)の小山市の景気見通し



見通しの対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI値
前々回 30年1~6月	0	39.5	53.5	7.0	0	0	58.1
前回 30年7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0	0	52.0
今回 31年1~6月	0	31.1	57.8	11.1	0	0	55.0

(注) 年月は見通し対象時期。



前回調査(平成30年6月)に比べ、

3%ポイント以上増加:「やや良くなる」 (+15.3)

3%ポイント以上減少:「変わらない」 (-10.6)

DI値: 55.0 (+3.0) に上昇 (5期連続で50%以上)

質問4 質問3（小山市の景気の先行き見通し）の回答理由

「やや良くなる」：

- ・「消費税増税がらみの景気対策と東京オリンピックのための整備の影響」
- ・「新興住宅地などが増えてきている」など

「変わらない」：

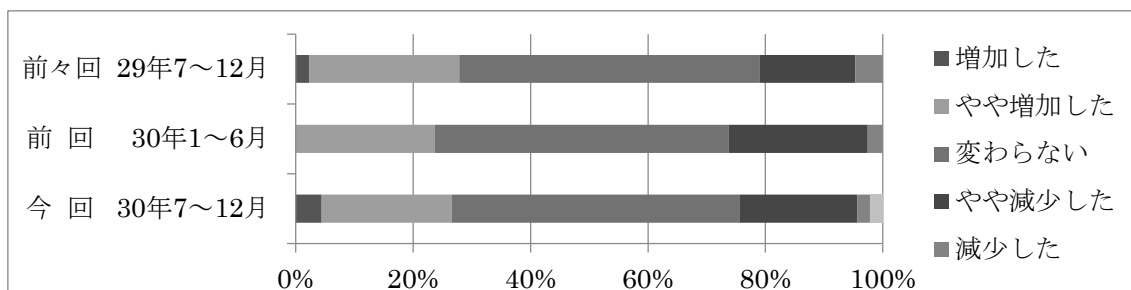
- ・「景気が良くなる要因が見当たらない」
- ・「中小企業の景況が改善しない」
- ・「消費増税前の影響は夏以降と予測され、上期は状況が変わらないと思う」  
など

「やや悪くなる」：

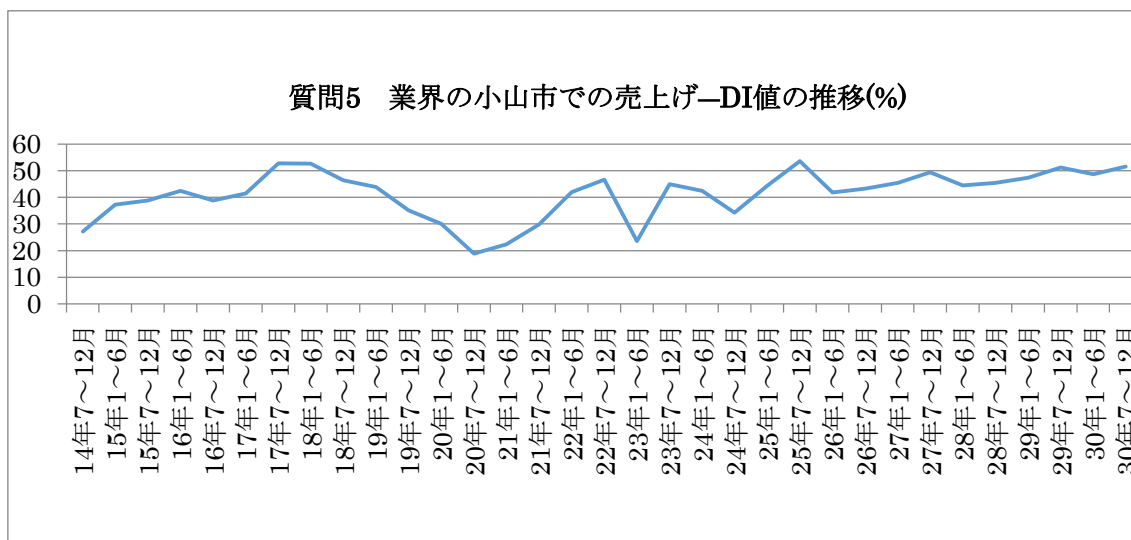
- ・「米中摩擦による株価の下落」
- ・「若者の消費活動が低迷している」など

### 3-2) 小山市における業界の景気

(図表 8) 質問 5 業界の小山市での売上げ (売上金額の増減)



	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI値
前々回 29年7~12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0	51.2
前回 30年1~6月	0	23.7	50.0	23.7	2.6	0	48.7
今回 30年7~12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6



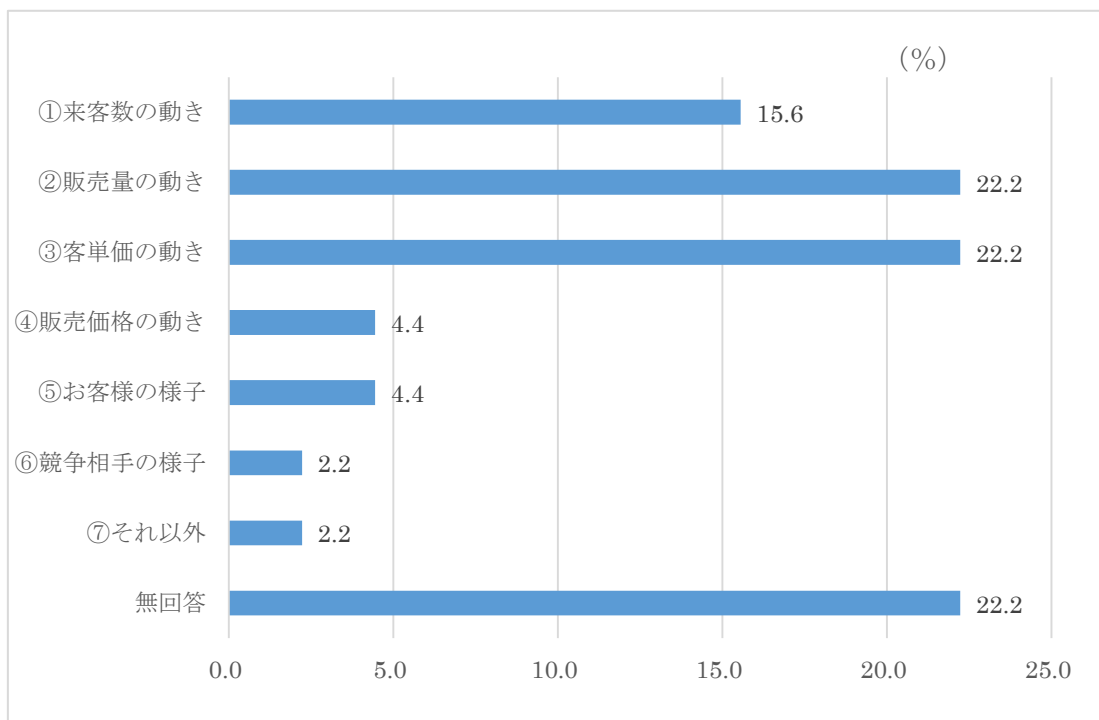
前回調査(平成30年6月)に比べ、

3%ポイント以上増加: 「増加した」 (+4.4)

3%ポイント以上減少: 「やや減少した」 (-3.7)

DI値: 51.6 (+2.9) に上昇 (2期ぶり 50%超え)

(図表 9) 質問 6-1 質問 5 の回答理由 (家計消費向け取引)



質問 5	質問 6-1 来客数 の動き	販売量 の動き	客単価 の動き	販売価格 の動き	お客様 の様子	競争相手 の様子	それ 以外	無回答 *1
増加した	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
やや増加した	4.4	8.9	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
変わらない	4.4	8.9	13.3	2.2	4.4	0.0	0.0	13.3
やや減少した	4.4	4.4	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0	4.4
減少した	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0
計	15.6	22.2	22.2	4.4	4.4	2.2	2.2	22.2

(注) \*1・・・無回答には家計向け売上のない企業(店舗)が含まれる。

45社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

質問 6-2 具体的な回答 (家計消費向け取引)

「増加した」: 「住宅購入のお客様が増加」(不動産・住宅業)

「増税を控え、リフォーム関係の売上げが伸びた」(小売業)

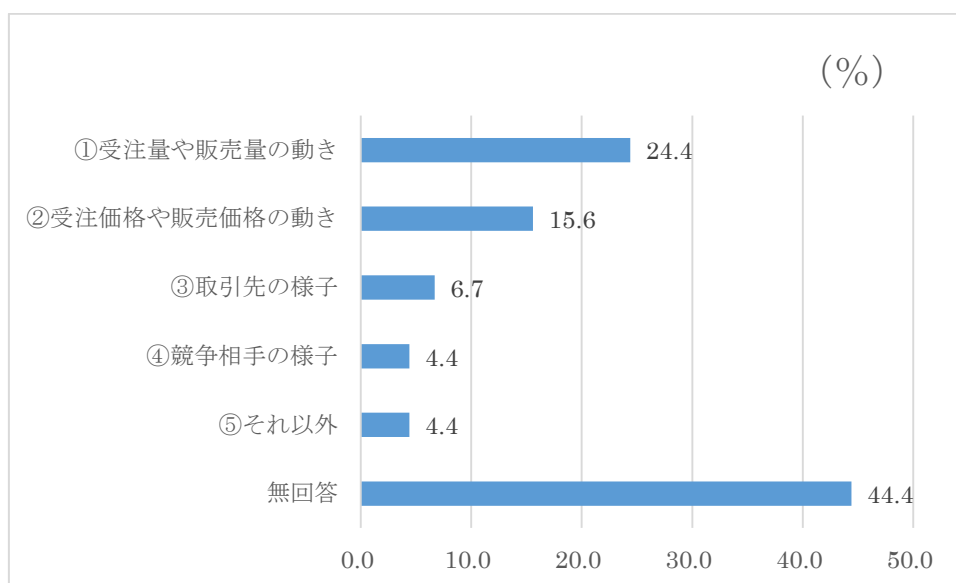
「やや増加した」: 「生産高が昨年を上回っている」(製造業)

「変わらない」: 「単価の減少、受注量の増加」(サービス業)

「売上げが横ばい」(製造業)

「やや減少した」: 「小山市内の客数が減り、通信販売の方が伸びている」(小売業) など

(図表 10) 質問 6-1 質問 5 の回答理由 (企業向け取引)



質問 5	質問 6-1 受注量や 販売量	受注価格や 販売価格	取引先の 様子	競争相手 の様子	それ以外	無回答 *1
増加した	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
やや増加した	2.2	4.4	0.0	0.0	0.0	13.3
変わらない	15.6	8.9	4.4	2.2	2.2	17.8
やや減少した	4.4	2.2	2.2	2.2	0.0	8.9
減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0
計	24.4	15.6	6.7	4.4	4.4	44.4

(注) \*1・・・無回答は企業向け取引のない企業(店舗)である。

45社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

#### 問 6-2 具体的な回答 (企業向け取引)

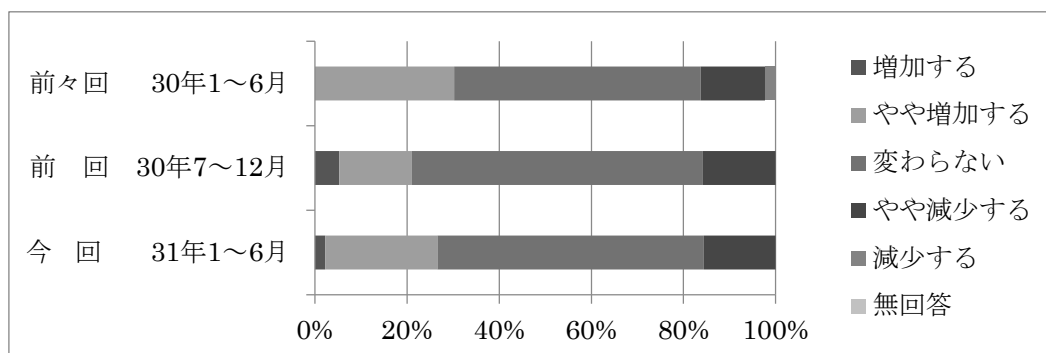
「やや増加した」:「生産量の増加」(製造業)

「料金を上げたため。値上げの影響はなかった」(ホテル・旅行業)

「変わらない」:「受注量は上半期と大差ないが、やや先行きには明るい情報が少ないと感じる」(製造業) など

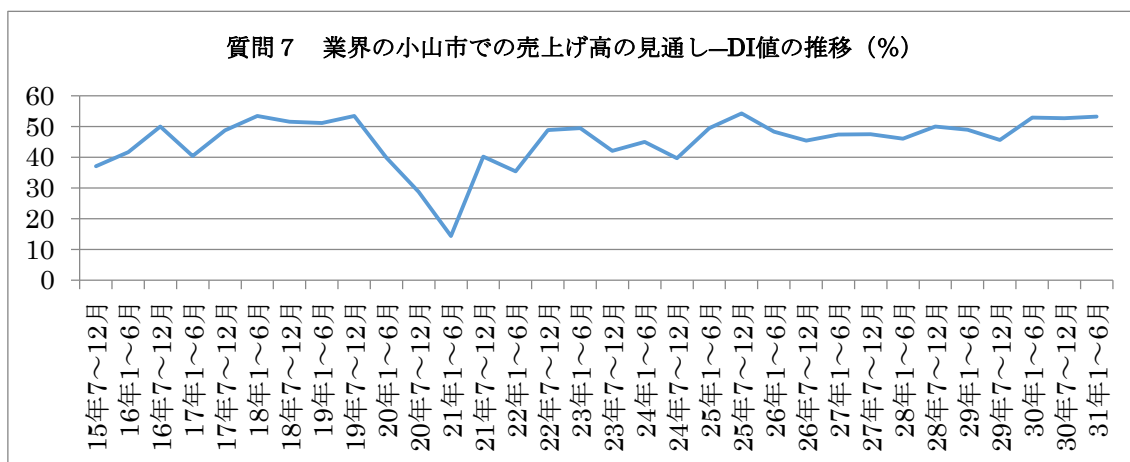
「やや減少した」:「競合他社が小山市に進出してきたため」(サービス業) など

(図表 11) 質問 7 業界の小山市での売上高見通し



見通し対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI値
前々回 30年1~6月	0	30.2	53.5	14.0	2.3	0	52.9
前回 30年7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0	0	52.7
今回 31年1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0	0	53.3

(注) 年月は見通し対象時期。



前回調査(平成 30 年 6 月)に比べ、

3%ポイント以上増加:「やや増加する」 (+8.6)

3%ポイント以上減少:「変わらない」 (-5.4)

「増加する」 (-3.1)

DI 値: 53.3 (+0.6) に上昇 (3 期連続の 50%以上)



質問 8 質問 7 の回答理由（自由記入）

「増加する」:

- ・「2019 年 3 月までは増加し、4 月以降は減少の見通し」（製造業）

「やや増加する」:

- ・「消費税率引上げ前の動きがあると思う」（小売業）
- ・「今期の傾向が続くと思われる」（製造業）

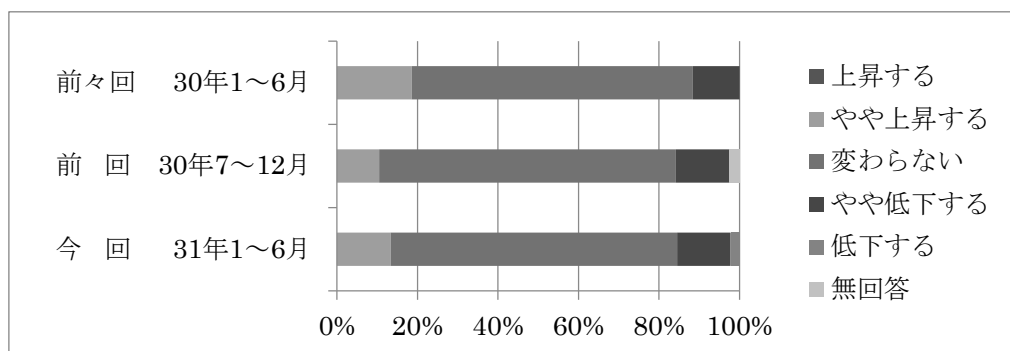
「変わらない」:

- ・「現状以上にアップできる理由が考えられない」（製造業）
- ・「景況、集客で改善する見込みが低い」（流通業）

「やや減少する」:

- ・「お客様の数が減ってきているため」（小売業）
- ・「従業員不足」（運輸業）  
など

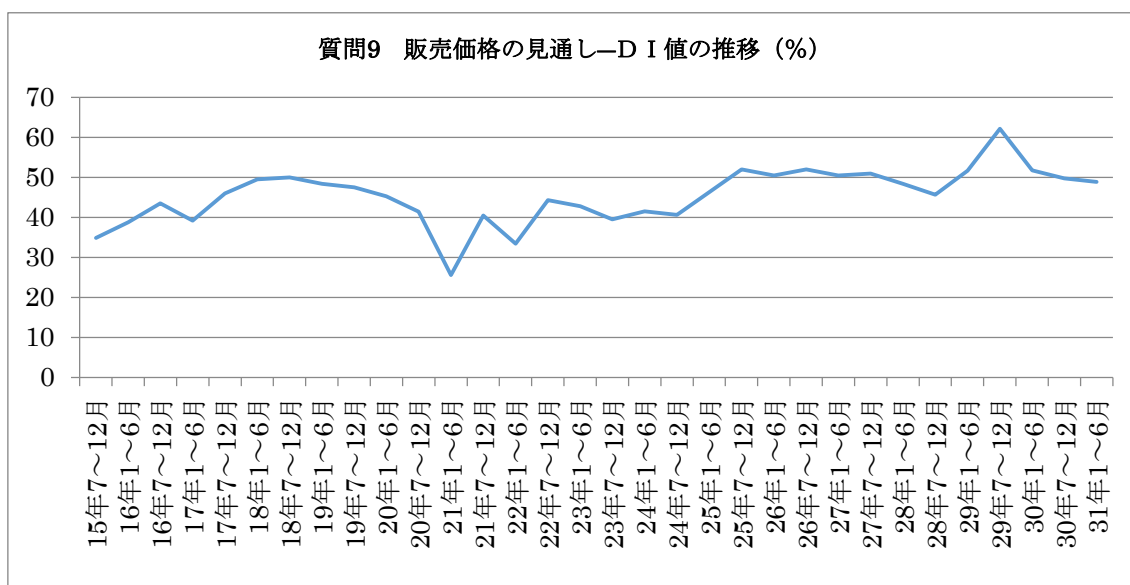
(図表 12) 質問 9 平成 31 年上半期 (1~6 月期) の販売価格見通し



(%)

見通し対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI値
前々回 30年1~6月	0	18.6	69.8	11.6	0	0	51.8
前回 30年7~12月	0	10.5	73.7	13.2	0	2.6	49.3
今回 31年1~6月	0	13.3	71.1	13.3	2.2	0	48.9

(注) 初回はこの見通し調査を行っていない。年月は見通し対象時期。



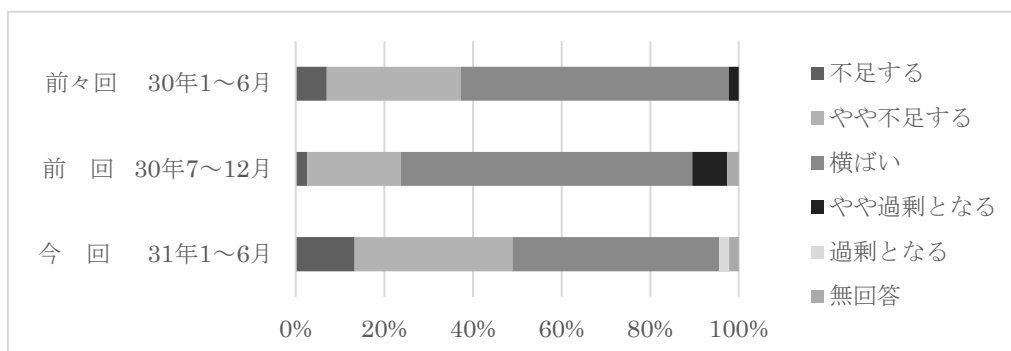
前回調査 (平成 30 年 6 月) に比べ、

3%ポイント以上増加：なし

3%ポイント以上減少：なし

DI 値： 48.9 (-0.4) (2期連続で50%以下)

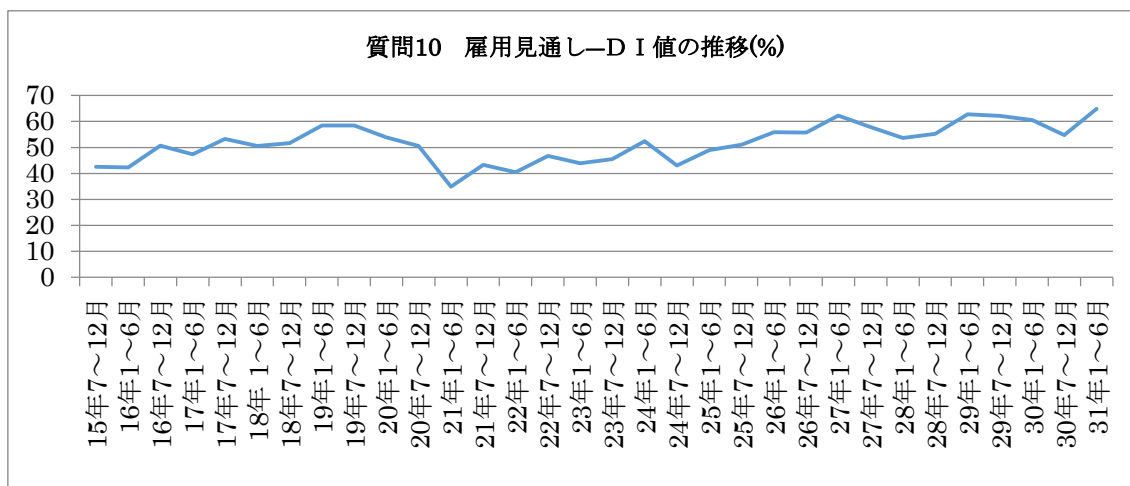
(図表 13) 質問 10 平成 31 年上半期 (1~6 月期) の雇用見通し



(%)

	不足	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI値
前々回 30年1~6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0	0	60.5
前回 30年7~12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0	2.6	54.7
今回 31年1~6月	13.3	35.6	46.7	0	2.2	2.2	64.8

(注) 初回はこの見通し調査を行っていない。年月は見通し対象時期。



前回調査(平成 30 年 6 月)に比べ、

3%ポイント以上増加 : 「不足」 (+10.7)

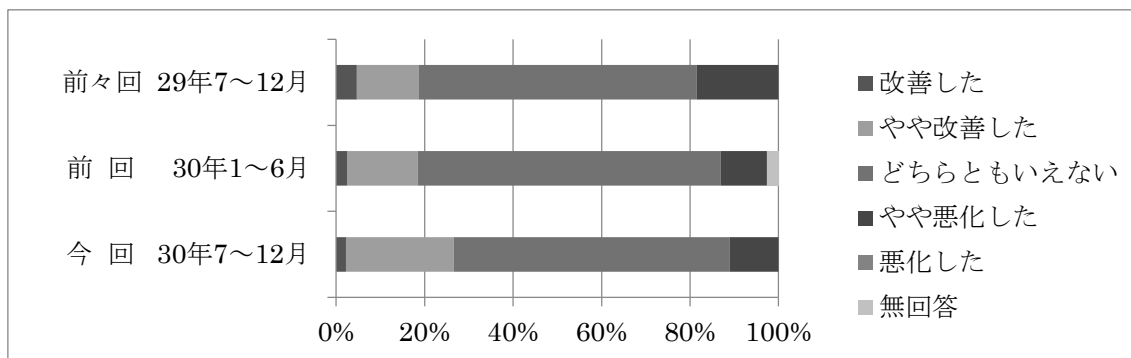
「やや不足」 (+14.5)

3%ポイント以上減少 : 「横ばい」 (-19.1)

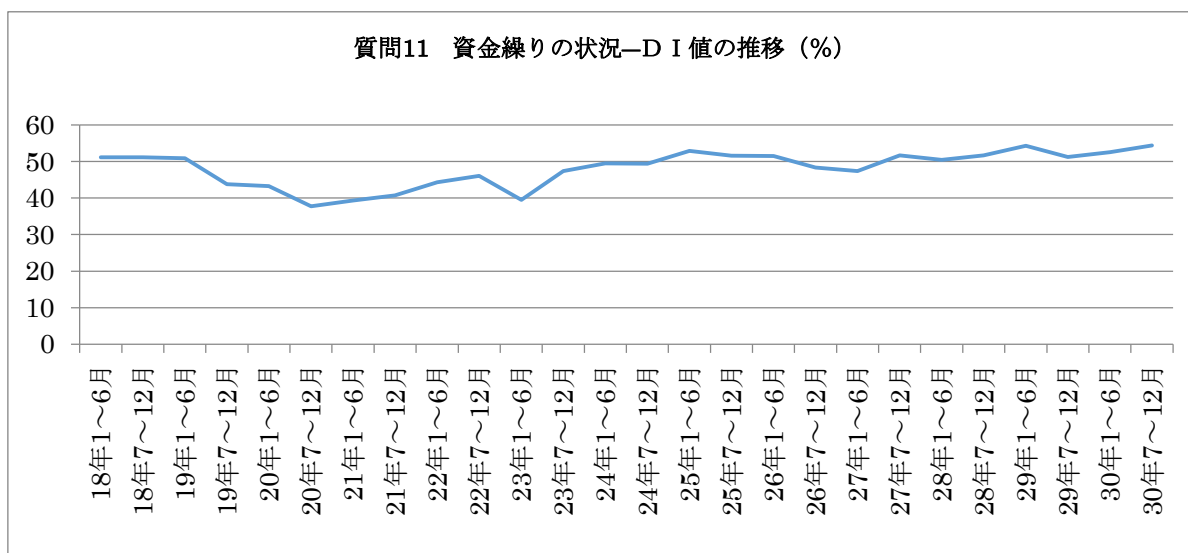
「やや過剰となる」 (-7.9)

DI 値 : 64.8 (+10.1) (2 期ぶりに 60%超)

(図表 14) 質問 11 平成 30 年下半期 (7~12 月月期) 資金繰りの状況



	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI値
前々回 29年7~12月	4.7	14.0	62.8	18.6	0	0	51.3
前回 30年1~6月	2.6	15.8	68.4	10.5	0	2.6	52.6
今回 30年7~12月	2.2	24.4	62.2	11.1	0	0	54.4



(注) この調査項目は第8回 (平成 18 年 6 月) から調査している。

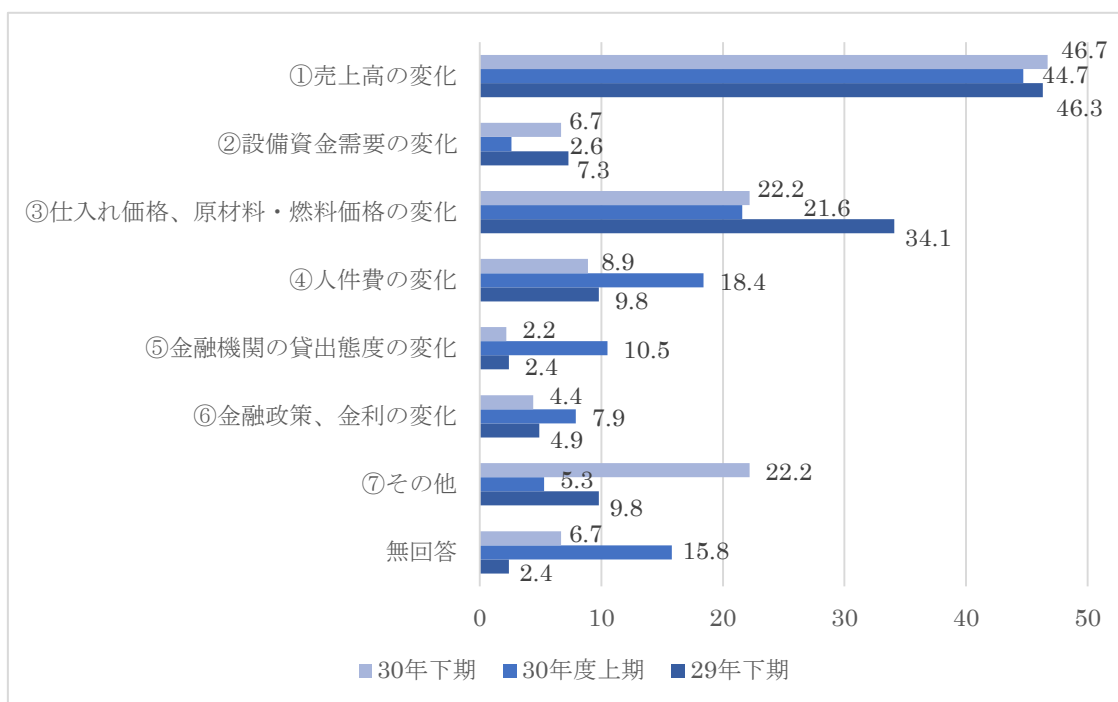
前回調査 (平成 30 年 6 月) に比べ、

3%ポイント以上増加: 「やや改善した」 (+8.6)

3%ポイント以上減少: 「どちらともいえない」 (-6.2)

DI 値: 54.4 (+1.8) (7 期連続で 50%以上)

(図表 15) 質問 12 質問 11 の回答理由 (%)



質問 12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問 11								
改善した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0
やや改善した	13.3	0.0	4.4	0.0	2.2	2.2	4.4	0.0
どちらともいえない	24.4	6.7	15.6	4.4	0.0	2.2	15.6	4.4
やや悪化した	8.9	0.0	2.2	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0
悪化した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
合計	46.7	6.7	22.2	8.9	2.2	4.4	22.2	6.7

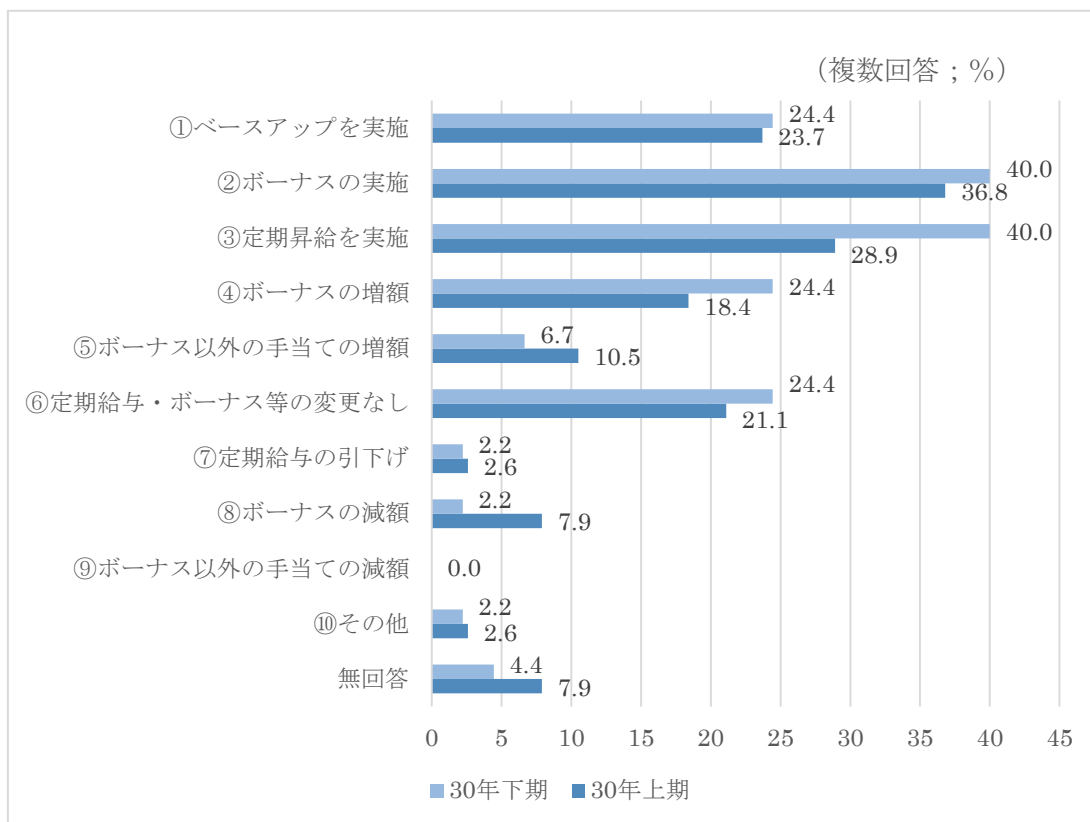
注) 回収 45 社に対する比率%。複数回答のため、合計は 100 にならない。

前回調査 (平成 30 年 6 月) に比べて

- 3%ポイント以上増加 : ⑦「その他」 (+16.9)
- ②「設備投資需要の変化」 (+4.1)
- 3%ポイント以上減少 : ③「人件費の変化」 (-9.5)
- ⑤「金融機関の貸出態度の変化」 (-8.3)
- ⑥「金融政策、金利の変化」 (-3.5)

※⑦「その他」の内容は、「自己資本のみで営業している」など

(図表 16) 質問 13 平成 30 年度の賃金等の状況



(注) 回収 45 社に対する比率%。複数回答可のため、合計は 100%にならない。

#### 前回調査 (平成 30 年 6 月調査) との比較

(回答割合が 3%ポイント以上増加)

②ボーナスの実施	40.0% (+3.2)
③定期昇給の実施	40.0% (+11.1)
④ボーナスの増額	24.4% (+6.0)
⑥定期給与・ボーナスの変更なし	25.0% (+3.3)

(回答割合が 3%ポイント以上減少)

⑤ボーナス以外の手当ての増額	6.7% (-6.0)
⑧ボーナスの減額	2.3% (-5.7)
無回答	4.4% (-3.5)

質問 14 質問 13（複数回答）の回答理由

「ベースアップの実施」、「ボーナスの実施」:

- ・「ボーナスファンドの総額はボーナス支給再開後過去最大額」

「ボーナスの実施」、「定期昇給の実施」、「ボーナスの増額」:

- ・「昨年との対比では若干業績向上がみられた」
- ・「社員の貢献に多少とも応えたい」

「ボーナス以外の手当ての増額」:

- ・「出勤手当の増」

「定期給与・ボーナス等の変更なし」:

- ・「仕入れ価格の大幅な増加があり、仕入れに苦戦。販売価格は上げられないため悩む」
- ・「何とか現状維持」

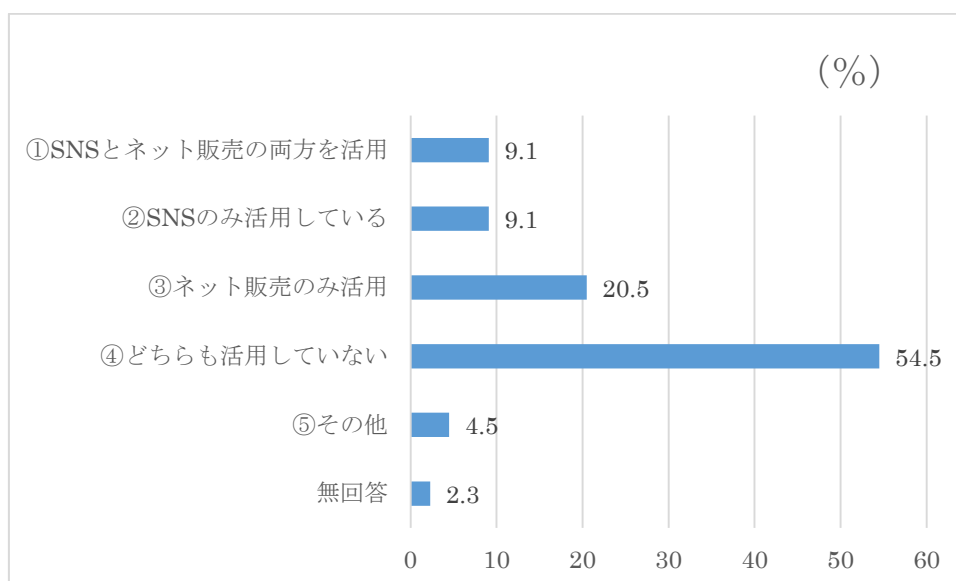
「定期給与の引下げ」:

- ・「収入が少なくなったため」

「ベースアップの実施」、「ボーナスの実施」、「ボーナスの減額」:

- ・「ベースアップ結果、賞与額を減らし、年収ベースで変わらないようにした。」  
など

(図表 17) 質問 15 SNS やネット販売の活用状況



(注) ⑤その他の内容は「ネット販売はしていないが、ネットによる情報発信はしている」、「SNS について特定の告知等にも活用」など

(回答の多い順)

④どちらも活用していない	(54.5%)
③ネット販売のみ活用している	(20.5%)
②SNSのみ活用している	(9.1%)
①SNSとネット販売の両方を活用している	(9.1%)
⑤その他	(4.5%)
無回答	(2.3%)



## II. 小山市経済動向ヒアリング調査

平成 31 年 2 月 6 日、白鷗大学ビジネス開発研究所に小山市の経済動向に敏感な代表的業種の方々にお集まりいただき、ヒアリング調査（聞き取り調査）を行った。業種はタクシー、IT 業界、自動車販売、銀行、鋼材、小売業（スーパーマーケット）、ホテル、および小山商工会議所の方々である<sup>3</sup>。また、各業界関係者へのヒアリング調査実施後、同席した白鷗大学経営学部の小笠原教授（ビジネス開発研究所長）からコメントがあった。

### （全般的な状況等）

小山市の平成 30 年下半期の景気の現状については、業種や企業により、好調、横ばい、減収と様々な声があった。平成 31 年の見通しは 2019 年 10 月に予定されている消費税率引上げ前の駆け込み需要を期待する声もあったが、全体として、今後の見通しに対して厳しい声が多かった。その理由として、中国の景気動向やオリンピック後の影響、将来の人口減少による客数の減少といった要因が挙げられた。また多くの業界で人材不足が先行きの業績に関わるとみている。

働き方改革に関しては、多くの業種・企業において、魅力ある企業づくり、働きやすい環境の整備を長期的な人材確保に向けた取り組みとして位置づけているが、現在、あるいは将来の人材不足への対応が非常に困難な課題であることが伺えた。

### （タクシー）

平成 30 年下期の小山地区の売上は前年に比べ 2.5%の減収となった。県内のタクシー業界全体の売上げは 4%程度減少している。従業員の不足により、新年会などの集中した需要に応えられない。中心部、駅に人が集まり、外に出ないことも影響している。消費税率引上げと同時に、（運賃値上げをしていない）関東一円のタクシー業界では、車両が高くなってきていること、燃料も昔からすると上がっていることから、売上げを上げられるような運賃の値上げを予定している。給料を上げなければ、乗務員不足の解消にもならないこともある。県内の乗務員は 2,100 数名いる。平均年齢が 62.5 歳であり、年々、高齢化している。50%が 65 歳以上で、（内訳は）65 歳から 70 歳が 28%、70 歳から 75 歳が 17%、75 歳以上が 5%である。乗務員は年に 100 人近くやめているが、補充ができない。今後、労務倒産も出てくるのではないかというのが現状である。農泊というインバウンドに対しての小山市の取り組みに対しては、日本の農家の人との交わりで県外の人を取り込むことが業界にもプラスになると注目している。

<sup>3</sup> 当日欠席のスーパー、ビジネスホテルは個別に電話等でヒアリング調査を行った。

#### (IT業界)

小山地区での売上は15%不足ではあるが、業績としては微増で黒字である。業績見通しに大きな変化はない。今後、不確かではあるが、軽減税率の影響が出てくる可能性はある。

「働き方改革」ということで、長時間労働の是正のために残業撲滅運動を行っている。栃木県から女性活躍応援団、仕事家庭応援宣言の認定を受け、現在は、2020年健康経営の認定に向けて活動を行っている。取り組みの一環として、福利厚生面で狭いものではあるがアリーナを建設中である。バドミントン、卓球、バスケットボール、バレーボール、スカッシュなどができる。社員の健康維持増進、ストレスの解消に力を入れており、家族にも開放を考えている。人手不足については、継続雇用の延長、同業者間の連携で補わざるを得ない。それ以外の対応はできていない。小山市のB級グルメのイベントはアピール力が弱いように感じる。小山市内の渋滞緩和により購買ができるようにするためにも環状線の早期開通を期待する。

#### (自動車販売)

当社は前年に設備投資を完了し、好調に推移している。小山地区、宇都宮地区など人口が横ばいに推移しているところは前年と同様、あるいは前年より少しよい傾向にあるが、佐野・足利地区のような人口の減少しているところでは購買も落ち込んでいる。人口減少への対応が課題である。業界では、日産やスバル等のメーカーが問題を起こした影響で、トヨタやホンダは全体的には恩恵を受けているが、先行きがよいのはオリンピック終了までという見方が一番強い。消費税率引上げに伴い、自動車取得税の廃止が決まっているが、これは今の政府の考え方ではオリンピック終了後に環境税を導入することが大筋で決まっているためである。季節変動により残業が集中する時期があることから、若い人の定着率がやや弱いように思う。

働き方改革、年間5日以上の有給休暇の義務化については、仕事をこなしていくためには、設備でできること、効率を上げることを考えていかないと対応しきれない。今後の自動車販売の見通しは1~3月が最も売れるが、今年に限っては4~6月も年号改元や天皇が変わるということで祝賀ムードがあること、10月の消費税増税に伴う駆け込み需要が7~9月にあることを考えると、上半期は前年より上昇傾向で推移をするのではという見方が大半を占めている。カーシェアリングはさほど影響はないが、カーシェアを行っているマンションもあり、こうしたマンションが増えてくれば、日常はカーシェア、遠出にはレンタカーの利用と、車の販売は厳しくなっていく傾向となると思う。個人向けのカーリースに代わるものとして、数年前から残価設定型クレジットがある。現在、販

売の 25%を占めているが、これからメーカーとして 3 割、4 割にしていくことになれば、車を安定的に供給するにはよい販売方法となる。所有から利用・使用する時代が変わってきている。自動車の関税には影響を受けるため、その行方に注目している。米中の貿易摩擦は続いてしまうと消費者の景況感が悪化し、車の買い控えにつながる。

#### (銀行)

銀行の 9 月末、1 月末の対前年増加率はほぼ横ばいから微増であったが、小山地区では昨年の年末に限っては、ほぼ残業なしで過ごしたことで対前年増加率が減少した。売上の伸びている会社でもオリンピック後の受注が心配、先行きが見通せないといった経営者の方が多く、設備投資は更新需要に限られる。一方、人手不足対策の自動化投資には関心があり、事業承継に関わるものにもビジネスチャンスがある。首都圏のインフラ関連、建設関連の需要が大きくなっている。消費税率引上げへの対策として、銀行では春以降、QRコード決済の仕組みを導入する予定である。インターネットバンキングの利用者やアプリサービスに登録されている方が増えており、来店者数、窓口利用者は減っている。インターネットバンキングへの誘導を進めている。

「働き方改革」としては、19 時までには帰ることを業績評価の 1 つとしており、70%の達成率であった。前年の残業時間の 10%削減目標をほぼ達成した。今月より、コアタイム以外の時間を申請制で認めるフレックスタイム制を導入した。消費税率引上げとその対応策、米中貿易摩擦の行方について関心を持っている。日銀のマイナス金利政策の影響としては金利が下げ止まらない状況である。円高ドル安、地政学リスクなどの影響も感じている。小山市の施策に関しては、東部第二工業団地への企業誘致に期待をもっている。市外からの住宅取得者に対しての補助金を活用させていただいており、引き続きお願いしたい。なお、小山市では遺跡の調査に時間がかかるというという声も聞いている。

#### (製造業 (鋼材))

小山市での売上は全体の 20%ではあるが、去年は前年と比べると売上げは増えた。通常、製造業は、2 月、3 月に決算対策や駆け込みによる需要を期待できるが、今年に入って引き合い、見積もり、受注等が多くない。昨年とは全く異なり、厳しい見通しである。業界としては自動車関連、半導体関係も鈍くなっている。消費税率引上げ前の駆け込み需要は期待できない。数年、設備投資は盛んであったが、昨年秋以降、潮目が変わってきている。特に中国の需要が半減し、北米はよいが今までと状況が変わってきている。

「働き方改革」については、若者の採用・定着に力を入れており、若者の採

用・育成に積極的なユースエール企業として数年前に栃木県では第一号で認定を受け、残業、有休消化も比較的できているため、対応に苦慮ということはない。工業団地連絡協議会のアンケート調査では人手不足の問題が出ている。現在は極端な人手不足ではないが、これからより魅力的な会社づくりをして、やめない、入りたいという魅力を発信したい。対外貿易の最大の相手国は中国であり、アメリカではない。中国の景気動向に非常に影響を受ける。小山市の施策については、人材確保に対する施策、雇用に対する補助、人材育成に対する補助の拡充をしていただけると有り難い。

(スーパー)

小山店の状況をみると、平成 30 年の売上げは平成 29 年に比べ横ばいであった(全社的には若干の落ち込み)。平成 31 年の見通しは 10 月の消費税率引上げで、8 月、9 月の駆け込み、その後の反動で月々の動きは振れるが、全体としては横ばいとみている。消費税率引上げに対応したシステムの対応は完了している。軽減税率への対応については、店内で飲食か、持ち帰りかで税率が変わるが、レジでのお客様の返事次第で対応することになる。その時の対応についてのマニュアルは整備した。また、消費税率引上げ時にはプライスカードを全部書き直す必要があり、臨時に増員して対応することになる。人手不足の中、人集めが大変である。SNS の活用についてはアプリを作って会員を集めており、SNS の活用は拡大している。ネット販売については、スーパーもネットスーパーを展開しており、今後もエリアを広げていく予定である。

(ビジネスホテル)

今年の 1 月は宿泊が伸びなかった(前年割れ、成人式以降ずっと予想を下回る)。来年の東京オリンピック・パラリンピックの影響については、観客は主に東京に泊まるとみられ、地方での宿泊は見通せない。ビジネスマンは東京でホテルがとれないと周辺に移るが、小山まではなかなか来ない。小山のビジネスホテルの需要は大企業の新人研修(工場に近い)や近隣で大型の設備投資があったときの建設工事等関係者である。東京の建設ラッシュは終わってきたため、小山あたりに建設工事が回ってくることを期待しているが、災害復興関連が優先なのでどうなるかわからない。ネット販売(予約)は 30%程度で変わっていない。これは優待企業からの予約は電話が中心ということもある。近年は予約から宿泊までの期間が短くなっており、見通しが立てにくい。SNS は宣伝に活用している。人手不足のなか求人しても来てもらいたいような人が応募してくれない。ホテルの場合、夜間かつ長時間の勤務なので高齢者には不向きなこともある。米中貿易摩擦は国内の製造業への影響を通じて小山のホテル業界

にも影響が出るので懸念している。月～金の稼働率はビジネス客中心で高いが土日の稼働率が低い。土日に遠隔地からも人の集まるイベントの誘致などをお願いしたい。

(商工会議所)

小山商工会議所で行っている景気動向の調査では、売上げの増加で「やや増加」が減少し、全体的には「横ばい」が多い。今まで好調であった建設業が減少傾向で、製造業では先行きの売上げが見込めないという不安材料があり、今後が懸念される。人手不足が深刻化している。応募実態が少ないことに加えて、採用できても1年から3年で退職してしまう人が多い。対応として賃上げや労働環境の改善を実施しているが、なかなか人材の確保ができない状況にある、という回答が多い。特に卸・小売業でこの傾向が顕著である。一部の製造業では外国人の雇用確保も困難になってきている。「コスト増加分を価格転嫁できない」、「世界経済の不安もあり、今後の景気の動向についてあまりよくなるのではないのでは」という回答もある。駆け込み需要への期待はあるが、その後の先割れが心配という経営者もいる。大型店からのヒアリングでは、売上は横ばいか減少傾向である。大型店においても人手不足が深刻化し、テナントの人員確保ができず、出店延期という影響も出ている。深刻な人手不足の解消、事業承継、消費税率引上げに伴う軽減税率対策、キャッシュレス化、これらの支援を行いたい。

(小笠原教授)

ビジネス開発研究所では、IoTやSNSの最新の情報に関する地元の企業向けのセミナーの企画を検討している。IoTは製造業で関心が高いが、現在、サービス業でIoT化が進んでおり、東京だと美容院で人手がなくなっているために自動化、IoT化が始まっている。北関東もまもなくその状況が来ると考えられる。SNS、フェイスブック、インスタグラムについてのセミナーの要望も増えている。子供向けのIT教育や高校生向けの起業支援など、東京で盛んであるものに対して(地域に若者を引き留める意味でも)、北関東、大学としても対応を検討しており、ご協力、ご支援をお願いしたい。

### Ⅲ. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 統計速報（2 次速報）で見ると、平成 30 年（暦年）の名目 GDP 成長率（2 次速報）は 0.6%と前年（1.7%）に比べ低下した。四半期別（名目：季節調整済、前期比）では平成 30 年 7～9 月-0.5%、10～12 月 0.4%となっており、昨年夏の天候不順等の影響による落ち込みを 10～12 月期で取り戻していない。実質 GDP の動きをみてもほぼ同様の動き（平成 30 年 7～9 月-0.6%、10～12 月 0.5%）であり、平成 30 年（暦年）の GDP デフレーターの前年変化率は-0.1%と微減になっている。

こうした中、平成 30 年 12 月から平成 31 年 1 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査（平成 30 年度第 2 回）」の結果をみると、平成 30 年下半期（30 年 7～12 月期）の小山市の景気の現状（水準）を聞いた質問の回答では、「やや良い」が減少し、「やや悪い」が増加したことなどから、D I 値では 51.6%と前回調査（平成 30 年 6 月、以下同じ）の 55.4%から低下したが、3 期連続で 50%を超えた。「やや悪い」という回答の理由としては、「商店街の人通りが少ない」、「企業の忘年会が減少し、外食の機会も減少している」などが、「どちらともいえない」という回答の理由としては、「上半期とあまり変わらない」、「購買意欲を感じない」などがあがっている。小山市の景気の先行き（平成 31 年 1～6 月の見通し）については、前回調査に比べると、「やや良くなる」が増加し、「変わらない」が減少したことなどから D I 値では 55.0%と前回（52.0%）から上昇し、5 期連続で 50%以上となった。回答の理由としては、「やや良くなる」と回答した企業では、「消費税増税がらみの景気対策と東京オリンピックのための整備の影響」「新興住宅地などが増えてきている」などが、「変わらない」と回答した企業では、「中小企業の景況が改善しない」、「消費税前の影響は夏以降と予測され、上期は状況が変わらないと思う」などがあがっている。一方、「やや悪くなる」と回答した理由では「米中摩擦による株価の下落」「若者の消費活動が低迷している」などがあがっている。

自己の企業や業界の売上金額の増減についての回答をみると、平成 30 年下半期（7～12 月期）は平成 30 年上半期（1～6 月期）に比べ「増加した」が増加し「やや減少した」が減少したことなどから、D I 値は 51.6%と上昇し、2 期ぶりに 50%を上回った。「増加した」理由としては、「住宅購入が増加」（不動産・住宅業）、「増税を控え、リフォーム関係の売上げが伸びた」（小売業）などがあがっている。先行き（来半期）の売上高見通しの D I 値は 53.3%と前回（52.7%）よりやや上昇し、3 期連続で 50%を超えた。

平成 31 年上半期（1～6 月期）の業界の販売価格の見通しについては、平成 30 年下半期（7～12 月期）に比べて、「低下する」、「やや低下する」、「やや上昇

する」がいずれも増加し、「変わらない」が減少したことなどから、D I 値では 48.9%と前回（49.3%）からやや低下し、2 期連続で 50%を下回った。平成 31 年上半期（1～6 月期）の雇用見通しについては、平成 30 年下半期（7～12 月期）に比べて、「不足」、「やや不足」が増加し、「横ばい」、「やや過剰」が減少したことなどから D I 値は 64.8%と前回（54.7%）から上昇し、2 期ぶりに 60%を超えた。資金繰りの状況については、今回調査では D I 値は 54.4%と前回（52.6%）からやや上昇した。「やや改善した」理由としては、「売上高の変化」などが多くなっている。また、平成 30 年度の賃金等の状況をみると、前回調査と比べて「定期昇給の実施」、「ボーナスの増額」が増加し、「ボーナス以外の手当の増額」は減少した。今回のアンケート調査で追加質問した「SNS やネット販売の活用」に関する質問については、「どちらも活用していない」（54.5%）が最も多く、次いで「ネット販売のみ活用している」（20.5%）、「SNS のみ活用している」、「SNS とネット販売の両方を活用している。」は 9.1%となっている。

ヒアリング調査では、業種や企業により、平成 30 年下半期の業績は好調、横ばい、減収と様々な声があったが、製造業を中心に特に今年に入って変化がみられており、米中貿易摩擦の影響による中国向け輸出の大幅減少の影響等で景気の先行きは厳しいとの声が多かった。

以上のように、平成 30 年下半期（7～12 月期）の小山市の景況感をみるとアンケート調査では現状について前回調査からやや悪化し、先行きについてはやや改善が期待されているが、ヒアリング調査では特に今年に入って米中貿易摩擦の影響が中国向け輸出の大幅減少という形などで表れてきており、先行きを懸念の声が多かった。販売価格の見通しについては、D I 値が 2 期連続で 50%を下回るなど、今年の上半期は販売価格が上がらないとみられており、デフレからの脱却は進んでいない。雇用見通しについては人手不足感がいっそう強まっている。なお、「SNS やネット販売の活用状況」に関しては、今回の調査では「両方とも活用している」は 1 割未満で、「両方とも活用していない」との回答が 50%を超えており、ビジネスへの活用は必ずしも進んでいないように見受けられる。

(参考資料 1)

小山市景気動向アンケート調査 調査票 (平成 30 年度第 2 回)

(2018 年 12 月現在の状況でお答え下さい。4 ページ目までご記入のほどよろしくお願  
い申し上げます。)

**質問 1** 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子か  
らみて 2018 年下半期 (7~12 月期) の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。

- ①良い ②やや良い ③どちらともいえない ④やや悪い ⑤悪い

**質問 2-1** 質問 1 のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もつとも適  
当と思われるものを一つ選んでください。「⑥それ以外」の場合は、その理由を ( ) 内に  
記入して下さい。

- ①小山市の人出の状況 ②お客様や取引先の様子 (購買態度など)  
③物価の動き ④雇用の状況 ⑤周辺地域の様子  
⑥それ以外 ( )

**質問 2-2** 質問 2-1 の回答内容について具体的に説明して下さい。

**質問 3** 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子  
からみて、2019 年上半期 (1~6 月期) の景気は、2018 年下半期 (7~12 月期) と比べて良  
くなると思いますか、悪くなると思いますか。(将来の方向)

- ①良くなる ②やや良くなる ③変わらない ④やや悪くなる ⑤悪くなる

**質問 4** 質問 3 でそのように回答した理由を教えてください。



**質問 5** 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における 2018 年下半期 (7~12 月期) の売上金額は、季節的な要因を除いて、2018 年上半期 (1~6 月期) の売上金額と比べて、増加したと思いますか。

- ①増加した ②やや増加した ③変わらない ④やや減少した ⑤減少した

**質問 6-1** 質問 5 でそのように回答された理由として、もっとも適切と思われるものをお一つ選んでください。

(家計消費向け取引の場合)

- ①来客数の動き ②販売量の動き ③客単価の動き ④販売価格の動き  
⑤お客様の様子 ⑥競争相手の様子 ⑦それ以外 ( )

(企業向け取引の場合)

- ①受注量や販売量の動き ②受注価格や販売価格の動き ③取引先の様子  
④競争相手の様子 ⑤それ以外 ( )

**質問 6-2** 質問 6-1 の回答内容について具体的に説明してください。

**質問 7** 貴店(貴社)の売上げの動き等からみて、貴業界の小山市における 2019 年上半期 (1~6 月期) の売上高 (生産高) 見通しをお伺いします。2018 年下半期 (7~12 月期) と比べて、季節的要因を除いて、2019 年上半期 (1~6 月期) の売上高 (生産高) は増加すると思いますか。(売上高の先行き)

- ①増加する ②やや増加する ③変わらない ④やや減少する ⑤減少する

**質問 8** 質問 7 でそのように回答した理由を教えてください。

**質問 9** 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2019 年上半期(1~6 月期)の販売価格の見通しをお伺いします。2018 年下半期(7~12 月期)と比べて、2019 年上半期(1~6 月期)の販売価格はどうなると思いますか。(価格見通し)

- ①上昇する ②やや上昇する ③変わらない ④やや低下する ⑤低下する

**質問 10** 貴店(貴社)の雇用(従業員)の状況等からみて、貴業界の小山市における 2019 年上半期(1~6 月期)の雇用状況の見通しをお伺いします。2018 年下半期(7~12 月期)と比べて、2019 年上半期(1~6 月期)の雇用状況はどうなると思いますか。(雇用見通し)  
従業員が

- ①不足する ②やや不足する ③横ばい ④やや過剰となる ⑤過剰となる

**質問 11** 貴店(貴社)あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店(貴社)の 2018 年下半期(7~12 月期)における資金繰りは、2018 年上半期(1~6 月期)にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。

- ①改善した ②やや改善した ③どちらともいえない ④やや悪化した ⑤悪化した

**質問 12** 質問 11でそのように回答した理由をあげて下さい。(複数回答可)

- ①売上高の変化 ②設備資金需要の変化 ③仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化  
④人件費の変化 ⑤金融機関の貸出態度の変化 ⑥金融政策、金利の変化  
⑦その他(具体的に、 )

**質問 13** 貴店(貴社)における平成 30 年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。  
(あてはまるものすべてに○、複数回答)

- ①ベースアップを実施 ②ボーナスの実施 ③定期昇給を実施 ④ボーナスの増額  
⑤ボーナス以外の手当の増額 ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし  
⑦定期給与の引下げ ⑧ボーナスの減額 ⑨ボーナス以外の手当の減額  
⑩その他( )

**質問 14** 質問 13でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。



<参考資料2>

①選択回答1～7（企業番号1～30）

No.	質問1	質問2	質問3	質問5	質問6		質問7
					家計	企業	
1	5	2	4	5	1	-	4
2	2	2	2	3	3	2	3
3	3	3	2	2	1	-	2
4	3	2	3	4	2	1	2
5	3	2	3	3	-	1	4
6	4	2	4	4	1	-	4
7	4	5	4	4	1	-	4
8	3	2	3	3	2	1	3
9	5	2	4	3	3	-	3
10	4	2	3	4	-	4	4
11	3	2	2	4	-	1	2
12	2	4	2	2	2	-	3
13	3	2	3	3	5	-	3
14	2	4, 5	3	3	-	5	3
15	3	1	3	3	-	3	3
16	3	5	3	2	1	-	3
17	3	6	2	分からない	7	7	2
18	4	1	3	4	6	3	3
19	3	2	3	3	3	1	2
20	2	2	2	3	3	-	2
21	3	1	2	3	-	1	3
22	3	2	3	2	3	-	3
23	3	2	3	3	5	1	3
24	3	2	3	3	2	4	3
25	3	1, 4	3	3	2	-	3
26	3	5	3	4	4	-	4
27	2	2	3	3	-	1	3
28	3	2, 5	2	1	3	-	2
29	3	2, 4	2	4	3	2	2
30	3	2	3	3	1	-	3

①選択回答 1～7（企業番号 31～45）

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 5	質問 6		質問 7
					家計	企業	
31	2	4	3	3	3, 4	-	3
32	3	2	3	3	1	1	3
33	2	2	3	3	-	2	3
34	3	5	3	2	-	7	3
35	2	1, 4	2	2	-	1	2
36	2	6	2	2	3	2	3
37	4	2	3	3	3	3	3
38	3	2	2	2	2	-	2
39	2	4	2	2	-	2	3
40	1	2	3	1	-	1	13
41	3	2	3	3	2	-	2
42	3	1	4	4	2	-	4
43	2	2	3	2	3	-	3
44	3	2	2	3	4	2	3
45	4	2	3	3	2	-	3

①選択回答 9～15（企業番号 1～30）

No.	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15
1	4	5	3	7	7	4
2	4	3	3	2, 3, 6	1, 2	3
3	3	3	3	1	6	2
4	3	3	3	2	3, 1	3
5	3	2	3	7	2, 3, 4	4
6	3	2	4	1	3	3
7	4	3	3	1	6	3
8	3	1	3	7	1	1
9	5	-	3	1	-	4
10	3	2	3	1	1, 2, 8	2
11	3	3	3	1	2	4
12	3	2	3	1, 4	2, 3, 4	1
13	3	3	2	1	6	4
14	3	2	3	7	1, 2, 6	4
15	3	3	2	7	2, 3	4
16	2	2	2	1	6	3
17	2	2	2	3	3, 4	4
18	4	3	2	3	-	4
19	4	3	2	1	2	4
20	3	3	3	7	2, 3	-
21	3	3	1	7	1, 2	4
22	3	3	3	3	2, 3, 4	1
23	3	1	4	3	6	4
24	3	3	4	1, 4	6	4
25	3	2	3	1	4	2
26	3	3	3	2, 3	6	3
27	3	2	3	1	2, 3, 4	2
28	3	1	2	1	3, 4	5
29	2	3	3	3	6	4
30	3	3	3	-	6	4

①選択回答 9～15（企業番号 31～45）

No.	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15
31	2	2	2	5, 6	2, 3	3
32	3	3	3	-	3	4
33	4	3	3	3	1, 2, 3	3
34	3	2	2	1	10	5
35	3	2	3	1	1, 2, 3, 5	4
36	3	1	3	1, 4	2, 1	3
37	3	3	3	7	6	4
38	3	3	2	7	3, 4	4
39	3	1	3	3	2, 3, 4	4
40	3	3	2	1	1, 2, 3	4
41	2	2	3	3	5	1
42	3	1	4	1, 3	3, 1	4
43	3	2	3	7	1	4
44	3	2	4	1, 4	1	4
45	2	2	3	1	4	1

②記述回答 1、2（企業番号 1～25）

No.	質問 1	質問 2-1	質問 2-1 選択肢 6 の回答	質問 2-2
1	5	2		技術者が高齢のため若い客が少ない。
2	2	2		前向きな設備投資を計画するお客様が増えてきた。
3	3	2		上半期とあまり変わらない。
4	3	2		昨年と同じ時に比べると伸び悩み、決まった物しか動かない
5	3	2		
6	4	2		企業の忘年会が減少し、外食の機会も減少している。
7	4	5		商店街の人通りが少ない。車社会になり大型店へのショッピングになっている。
8	3	2		野菜の卸売の飲食店、ホテルなどの納品量が減っている感じがする。
9	5	2		高額商品が売れない
10	4	2		
11	3	2		10月、11月、12月と車の販売状況が良くないため。7月、8月、9月は良かった。
12	2	4		求人数の増加(逆に人が集まらない)
13	3	2		
14	2	4, 5		派遣社員の集まり、定着が悪い(雇用が活発)
15	3	1		
16	3	5		周辺の飲食店への来客数にバラつきがある
17	3	6	市内の商売がないため	
18	4	1		景気が良い話は聞かない
19	3	2		顧客反応状況は対前年 130%の動き。やや動きが出てきている感があった。メーカーショールーム来場者も 110%ほどで推移という話も耳に入る。(住宅設備機器)
20	2	2		
21	3	1		
22	3	2		来店数が前年比で減少している。
23	3	2		
24	3	2		
25	3	1, 4		営業の方の動きが落ちている



②記述回答 1、2（企業番号 25～45）

No.	質問 1	質問 2-1	質問 2-1 選択肢 6 の回答	質問 2-2
26	3	5		新規の建設などがある反面、空き地が増えて人口が減っているような気がする。
27	2	2		多少積極的な動きも見受けられる
28	3	2, 5		購買意欲を感じない
29	3	2, 4		従業員不足が続いている為
30	3	2		お客の利用頻度の不変
31	2	4		
32	3	2		お客様の購買状況に変化がない。
33	2	2		売上が前年対比で 10%減
34	3	5		・ 駅ビル店舗への買い物客が少ない。 ・ 閑散としていて活気が感じられない。
35	2	1, 4		採用活動が困難
36	2	6	同業の企業の様子を見て	インターネットの予約サイトで判断するしかないのですが、市内の他ホテルも同じような動き（稼働）で推移しているので。
37	4	2		日本の伝統文化ではなく、安く作ればいいという考え方で、小山市の市政は極めて残念に思います。
38	3	2		
39	2	4		さまざまな所で仕事量が多いというところで、人手不足の状況にあり、景気もそれなりに悪くはない状況にあると思う。
40	1	2		工場の稼働率が上昇し、それに伴い周辺の外注先への取引量も増えて、全体的にモノの流れが増加しているから。
41	3	2		目立った変化は見られない。(お客様は)質を重視するも、きわめて慎重性が見られる。
42	3	1		
43	2	2		メーカーで 31 年度取引を止める所の商品のまとめ買いの方が少々いるため
44	3	2		
45	4	2		購入点数（一人当たり）が減っている。(特にファッション関連)

③記述回答 3、4（企業番号 1～29）

No.	質問 3	質問 4
1	4	質問 2-1 と同じ
2	2	設備投資案件が複数件ある。
3	2	消費税の値上げに伴い、住宅購入が増えると思われる。
4	3	変わらない事を願う。良くなれば良い。
5	3	
6	4	若者の消費活動が低迷している。
7	4	駅前の人通り少なく、夜の飲み屋さんだけのみの商店となっている。
8	3	
9	4	10%税率のため
10	3	
11	2	車の販売に関しては消費税の駆け込み需要が変わると思うのでやや良くなると思う。
12	2	求人数がまだ増加している
13	3	
14	3	消費税増税が控えていることなどから
15	3	
16	3	良くなる理由がみあたらない
17	2	
18	3	
19	3	景気が良くなる要因が見つからない
20	2	現在の流れはおおむね続くと考えている。海外地政学的リスクが経済に及ぼす影響については不透明である。
21	2	消費税増税がらみの景気対策と東京オリンピック整備
22	3	中小企業の景況が改善しない。
23	3	
24	3	
25	3	人口減少が必ず来るため
26	3	消費増税の影響があるのかどうか分からない為、かけこみがあるのか。
27	3	現況の好調さ（部分的にも）が加速されるとは考えられない。
28	2	オリンピックに向け、少しずつ活気が出て増税前には駆け込み需要も出てくると思う。
29	2	新興住宅地などが増えてきているため。

③記述回答 3、4（企業番号 30～45）

No.	質問 4	質問 5
30	3	
31	3	
32	3	現状から良くなる要因がないため。
33	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良くなる要素がない。</li> <li>・運送代が値上げされ、来年は更に物価が上がるのではと思う。</li> <li>・消費税増税前の駆け込み需要とは関係ない業界（花卉）なので、増税されれば需要が下がるだけ。</li> </ul>
34	3	小山へ引越して 20 年になるが、駅東口・西口の商店など、あまり変わっていないように感じる。繁盛しているような感じではない。シャッターもしまっている。
35	2	雇用状況
36	2	当社の稼働状況から。
37	3	例年のことで、良くなるという予想が考えられません。
38	2	10 月の消費税 10%になる前に動きがあり、一時的に良くなると思われる。
39	2	上半期については消費税の駆け込み需要もあり、やや良いと思われるがその先はオリンピックの影響がどれくらいあるかであるが、やや下向きの方向に行くのではないかと思われる。
40	3	19 年上期までは、売上計画値として 18 年下期とは変わらないから。
41	3	2-2 の答えと変わらない
42	4	米中貿易摩擦による株価の下落
43	3	上を向くような材料が少ない
44	2	最低賃金が上がり良くなる気がする
45	3	消費税増税前の影響が夏以降大きく変動すると予測され、上記は状況が変わらないと思います。

④記述回答 5、6（企業番号 1～24）

No.	質問 5	質問 6-1			質問 6-2
		家計	企業	選択肢 5 の回答	
1	5	1			質問 2-1 と同じ
2	3	3	2		貸出の案件は増えているが、金利の下げ基調は続いている。
3	2	1			上半期に比べて、住宅購入のお客様が増加。
4	4	2	1		各企業間い合わせすらない。
5	3		1		客先からの受注動向は上半期と大差ないが、やや先行き時には明るい情報が少ないと感じる。特に自動車関連。
6	4		1		
7	4		1		小山市内の客数が減り、通信販売の方が伸びている。
8	3	2	1		新規店がオープンしても、辞めてしまう店もあり、増加が見込めない為。
9	3	3			高額商品が売れない
10	4		4		競合他社が小山市に進出してきたため
11	4		1		車の受注台数が少し減少したため
12	2	2			生産高が昨年を上回っている。
13	3	5			
14	3		5	市内向けの販売がない	
15	3		3		
16	2	1			来客数がやや増加した
17		7	7	分からない	
18	4	6	3		
19	3	3	1		単価の減少、受注量の増加
20	3	3			客数は増加しているが、単価は下落しており、売上高は変わらない。
21	3		1		
22	2	3			客単価の高い商品が売れた。
23	3	5	1		
24	3	2	4		

④記述回答 5、6（企業番号 25～45）

No.	質問 5	質問 6-1			質問 6-2
		家計	企業	選択肢 5 の回答	
25	3	2			売上額にて回答
26	4	4			仕入れ値が上がっているのに、販売価格を上げずらい。
27	3		1		特段の動きがない
28	1	3			増税を意識してでしょうか。リフォーム関係の売り上げが伸びた。
29	4	3	2		客数・単価ともに下がった為
30	3	1			
31	3	3, 4			
32	3	1	1		
33	3		2		販売単価が下がっている。(需要の落ち込み)
34	2		7		留学生の受験者が増加したため
35	2		1		生産量の増加
36	2	3	2		料金を上げた為。また、値上げの影響がなかった。
37	3	3	3		メーカー値上げの分は認めていただいている。
38	2	2			契約件数が増加している。
39	2		2		今まで受注価格・販売価格共にずっと変更できずにきたが、今年やっと少しではあるが、見直しを行う事ができた為の売上高の動きであると思う。それまでは生産性の向上に注力しかできなかったが、限界に来ていた。
40	1		1		工場で生産する量が増加したから、比例して下請会社の売上も増加する。
41	3	2			売価、数量共さほどの変化なし
42	4	2			従業員不足と高齢化
43	2	3			先ほどと同じ。まとめ買いの為ため、金額が増加した。
44	3	4	2		
45	3	2			一人当たり買い上げ点数の減

⑤記述回答 7、8（企業番号 1～28）

No.	質問 7	質問 8
1	4	人口が増加していない。地区的に
2	3	質問 6-2 同様
3	2	消費税
4	2	消費税増前のかけこみが有るか…と希望。
5	4	上記のように受注増につながる情報が少ないため。ただし例年は期末需用(3月)があるのでそれだけは期待値である。
6	4	人手不足により、飲食の機会が増加しない
7	4	駅前（西口）の開発をもっとしてほしい。
8	3	6-2 と同じ。
9	3	消費者の収入が変わらないから
10	4	会員数の減少の為
11	2	質問 4 と同じ
12	3	
13	3	
14	3	質問 6 に同じ
15	3	
16	3	まだその日によって来客数にバラつきが見られるため
17	2	なんとなく
18	3	
19	2	設備・メンテナンス等の増加
20	2	住宅産業・リフォーム産業では今もう既に消費増税の意識を持ったお客様が動いている。先物(3～6ヶ月先) 物件引き合いが増えていることで、2019年上記の動きはやや活発と推測(見込んで) いる。
21	3	
22	3	景況、集客で改善する見込みが低い。
23	3	
24	3	
25	3	選挙になるかどうかにて不明
26	4	お客様の数が減っていきいているため。
27	3	同上
28	2	家電業界では 4K 新放送が始まり、オリンピックに向けて需要は増えると思う。当社のイベントを通しリフォームの売上を伸ばしたい。

⑤記述回答 7、8 (企業番号 29～45)

No.	質問 4	質問 5
29	2	質問 4 と同じ
30	3	アウトサイダー店に押されている
31	3	
32	3	
33	3	季節的要因でしか上がらない。
34	3	
35	2	今季の傾向が続くと思われる。
36	3	今年上期は土曜・日曜の需要が減ると考えられる。室単価を上げても、そう稼働が上がらないので、「変わらない」と考える。
37	3	固定客が例年通りの注文をしてくれる。
38	2	契約件数が更に増加すると思われる。
39	3	当業界の生産高は変わらないと思われるが、業界によっては生産の増加が予想されると思う。
40	1	19 年 3 月までは増加し、4 月以降は減少する見通し。
41	2	消費税前の動きがあると思う。
42	4	従業員不足
43	3	さほどお客様に変化が見られない
44	3	
45	3	増税前にて大きな変化はないと思われる。

⑥記述回答 11、12 (企業番号 1～30)

No.	質問 11	質問 12	質問 12 選択肢 7 の回答
1	3	7	仕入れ価格が同じのため
2	3	2, 3, 6	
3	3	1	
4	3	2	
5	3	7	変化なし
6	4	1	
7	3	1	
8	3	7	良くも悪くもない感じがする
9	3	1	
10	3	1	
11	3	1	
12	3	1, 4	
13	2	1	
14	3	7	特に変化なし
15	2	7	売掛金回収条件の変更
16	2	1	
17	2	3	
18	2	3	
19	2	1	
20	3	7	変化はない
21	1	7	M/Aした
22	3	3	
23	4	3	
24	4	1, 4	
25	3	1	
26	3	2, 3	
27	3	1	
28	2	1	
29	3	3	
30	3		



⑥記述回答 11、12 (企業番号 31~45)

No.	質問 11	質問 12	質問 12 選択肢 7 の回答
31	2	5, 6	
32	3		
33	3	3	
34	2	1	
35	3	1	
36	3	1, 4	
37	3	7	自己資金のみで、営業をしている。
38	2	7	資金調達は自己資金にて順調に推移している。
39	3	3	
40	2	1	
41	3	3	
42	4	1, 3	
43	3	7	改装費(塗装代) や電動看板の借入などで高い買い物をした。
44	4	1, 4	
45	3	1	

⑦記述回答 13、14（企業番号 1～25）

No.	質問 13	質問 13 10. その他の回答	質問 14
1	7		収入が少なくなったため
2	1, 2		ボーナスファンドの総額はボーナス支給再開後過去最大額。
3	6		売上が横ばいの為、変更なし
4	3, 1	ボーナス無	決算後昇給は有るが、ボーナスは基本無
5	2, 3, 4		冬の賞与は若干増額した（5%）（夏対比）
6	3		人材確保に向けて、社員およびパートの賃金を改定した。
7	6		小売商店はあくまでも売上アップを伴わないと、何事もアップできない。
8	1		パートは時給 20 円 UP、社員は 5000 円月給 UP
9			
10	1, 2, 8		ベースアップを行った結果、賞与額を減らし、年収ベースで変わらないようにした。
11	2		
12	2, 3, 4		
13	6		
14	1, 2, 6		
15	2, 3		
16	6		売上高はやや上がってきたが、もともと給与額はぎりぎり支給していたため、やっと赤字が解消されてきている所であるため。
17	3, 4		
18			
19	2		例年の年 2 回ボーナス
20	2, 3		
21	1, 2		
22	2, 3, 4		昨年との対比では若干の業績向上が見られた。
23	6		仕入れ価格の大幅な増加があり仕入れに苦戦。販売価格は上げられない為悩む。
24	6		
25	4		人材を生かすため

⑦記述回答 13、14（企業番号 26～45）

No.	質問 13	質問 13 10. その他の回答	質問 14
26	6		なんとか現状維持
27	2, 3, 4		社員の貢献に多少でも応えたい
28	3, 4		定期昇給は毎年継続している。売上げに対しボーナスを増額した。
29	6		仕入れ価格等の増加により経費増加を防ぐため
30	6		
31	2, 3		
32	3		
33	1, 2, 3		パートの最低賃金のアップ（法律）
34	10	パート賃金の事はわからない為 回答不可	
35	1, 2, 3, 5		業界平均程度で実施
36	2, 1	基本給以外での 手当の増額。	やや増収したので。
37	6		自営業のため、変更はない。
38	3, 4		業績は順調に推移しており、昇給・ボーナスに反映させている。
39	2, 3, 4		人手不足を最小限にとどめる為、従業員退職の対応。
40	1, 2, 3		増収増益に対しての従業員への還元
41	5		出勤手当の増
42	3, 1	年齢による給与 引き下げを廃止	定年後の再雇用時の給与引き下げを廃止し、同一作業同一賃金とした。
43	1		最低賃金の移動
44	1	最低賃金の改正 により	
45	4		業績に応じての変動する賞与指数がアップしたため平成 29 年度よりやや増。

⑧記述回答 15 (企業番号 1~45)

No.	質問 15	質問 15 選択肢 5 の回答	No.	質問 15	質問 15 選択肢 5 の回答
1	4		24	4	
2	3		25	2	
3	2		26	3	
4	3		27	2	
5	4		28	5	販売はしていないが、情報の発信はしている。
6	3		29	4	
7	3		30	4	
8	1		31	3	
9	4		32	4	
10	2		33	3	
11	4		34	4	
12	1		35	5	オープンキャンパスなどの告知等、SNS を活用。
13	4		36	3	
14	4		37	4	
15	4		38	4	
16	3		39	4	
17	4		40	4	
18	4		41	1	
19	4		42	4	
20	-		43	4	
21	4		44	4	
22	1		45	1	
23	4				

## (参考資料3)

## 質問1 小山市の景気の現状(水準)

	良い	やや 良い	どちらとも いえない	やや 悪い	悪い	無回答	D I 値
今回 平成30年7～12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0	51.6
前回 30年1～6月	0	31.6	55.3	10.5	0	2.6	55.4
前々回 29年7～12月	0	32.6	58.1	4.7	4.7	0	54.7
第30回 29年1～6月	0	17.0	59.6	19.1	4.3	0	47.3
第29回 28年7～12月	0	14.6	47.9	31.3	6.3	0	42.7
第28回 28年1～6月	0	9.3	64.8	20.4	5.6	0	44.5
第27回 27年7～12月	0	21.7	56.5	21.7	0	0	50.0
第26回 27年1～6月	0	22.4	49.0	20.4	8.2	0	46.4
第25回 26年7～12月	0	10.9	50.0	32.6	6.5	0	42.7
第24回 26年1～6月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回 25年7～12月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0	52.0
第22回 25年1～6月	0	18.5	48.1	31.5	1.9	0	45.8
第21回 24年7～12月	0	4.1	44.9	34.7	16.3	0	34.2
第20回 24年1～6月	0	14.6	29.2	43.7	12.5	0	36.7
第19回 23年7～12月	1.8	9.2	25.5	45.5	18	0	32.8
第18回 23年1～6月	0	1.9	15.4	50	30.8	1.9	22.0
第17回 22年7～12月	0	6.7	33.3	40	20	0	31.7
第16回 22年1～6月	0	10.4	27.1	39.6	22.9	0	31.3
第15回 21年7～12月	0	2.1	4.2	41.7	52.0	0	14.1
第14回 21年1～6月	0	1.8	1.8	38.6	57.8	0	11.9
第13回 20年7～12月	0	0	4.3	36.2	59.5	0	11.2
第12回 20年1～6月	0	2.2	13.3	66.7	17.8	0	25.0
第11回 19年7～12月	0	0	38.3	53.2	8.5	0	32.5
第10回 19年1～6月	0	23.1	45.2	27.9	3.8	0	46.9
第9回 18年7～12月	0	20.8	35.4	33.3	10.5	0	41.6
第8回 18年1～6月	0	25.5	53.2	14.9	6.4	0	49.5
第7回 17年7～12月	0	28.9	44.4	22.2	4.5	0	49.4
第6回 17年1～6月	0	14.6	29.3	51.0	5.1	0	38.4
第5回 16年7～12月	0	12.5	27.5	42.5	17.5	0	33.8
第4回 16年1～6月	0	16.7	38.1	33.3	11.9	0	39.9
第3回 15年7～12月	0	12.0	18.0	40.0	30.0	0	28.0
第2回 15年1～6月	1.6	0	16.4	44.3	37.7	0	20.9
初回 14年7～12月	0	1.2	7.4	37.0	54.4	0	13.9

質問3 小山市の景気の先行き（来半期見通し）

見通し対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	D I 値
今回 平成31年1～6月	0	31.1	57.8	11.1	0	0	55.0
前回 30年7～12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0	0	52.0
前々回 30年1～6月	0	39.5	53.5	7.0	0	0	58.1
第30回 29年7～12月	0	19.1	63.8	14.9	2.1	0	50.0
第29回 29年1～6月	0	24.5	61.2	12.2	2.0	0	52.0
第28回 28年7～12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0	44.5
第27回 28年1～6月	0	21.7	60.9	17.4	0	0	51.1
第26回 27年7～12月	0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回 27年1～6月	0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回 26年7～12月	0	24.0	46.0	26.0	4.0	0	47.5
第23回 26年1～6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0	52.6
第22回 25年7～12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0	56.5
第21回 25年1～6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0	54.6
第20回 24年7～12月	0	20.8	43.8	27.1	8.3	0	44.3
第19回 24年1～6月	0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回 23年7～12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0	44.7
第17回 23年1～6月	0	6.7	64.4	24.4	4.5	0	43.3
第16回 22年7～12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回 22年1～6月	0	8.3	37.5	33.3	20.9	0	33.3
第14回 21年7～12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回 21年1～6月	0	0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回 20年7～12月	0	2.2	13.3	68.9	15.6	0	25.5
第11回 20年1～6月	0	8.5	42.6	42.6	4.3	2	39.1
第10回 19年7～12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0	0	50.7
第9回 19年1～6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0	52.6
第8回 18年7～12月	0	31.9	51.1	17.0	0	0	53.7
第7回 18年1～6月	2.2	51.1	40	6.7	0	0	62.2
第6回 17年7～12月	0	17.1	48.8	26.8	7.3	0	43.9
第5回 17年1～6月	0	9.8	41.5	43.9	4.8	0	39.1
第4回 16年7～12月	0	33.3	50	11.1	5.6	0	52.8
第3回 16年1～6月	0	18.0	32.0	34.0	16.0	0	38.0
第2回 15年7～12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0	36.0
初回 15年1～6月	0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

## 質問5 業界の小山市における売上(売上金額の増減)

(%)

	増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	D I
今回 平成30年7～12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
前回 30年1～6月	0	23.7	50.0	23.7	2.6	0	48.7
前々回 29年7～12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0	51.2
第30回 29年1～6月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0	47.3
第29回 28年7～12月	0	10.2	59.2	28.6	2.0	0	45.4
第28回 28年1～6月	0	20.4	44.4	24.1	11.1	0	44.5
第27回 27年7～12月	0	23.9	50	21.7	4.3	0	49.4
第26回 27年1～6月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回 26年7～12月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回 26年1～6月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回 25年7～12月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0	53.6
第22回 25年1～6月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回 24年7～12月	0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回 24年1～6月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0	42.4
第19回 23年7～12月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回 23年1～6月	0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回 22年7～12月	4.4	20	42.2	24.4	9	0	46.6
第16回 22年1～6月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回 21年7～12月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0	29.8
第14回 21年1～6月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回 20年7～12月	0	0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回 20年1～6月	0	6.7	26.7	46.7	19.9	0	30.1
第11回 19年7～12月	0	6.4	40.4	40.4	12.8	0	35.1
第10回 19年1～6月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回 18年7～12月	4.2	18.8	41.7	25	8.2	2.1	46.4
第8回 18年1～6月	0	34.0	46.8	14.9	4.3	0	52.6
第7回 17年7～12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回 17年1～6月	0	19.5	31.7	41.5	7.3	0	41.5
第5回 16年7～12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0	38.8
第4回 16年1～6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0	42.4
第3回 15年7～12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回 15年1～6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0	37.3
初回 14年7～12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問7 業界の小山市の売上高見通し（来半期の見通し）

見通し対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	D I 値
今回 平成31年1～6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0	0	53.3
前回 30年7～12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0	0	52.7
前々回 30年1～6月	0	30.2	53.5	14.0	2.3	0	52.9
第30回 29年7～12月	0	10.6	66.0	19.1	4.3	0	45.7
第29回 29年1～6月	0	18.4	61.2	18.4	2.0	0	49.0
第28回 28年7～12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0	50.0
第27回 28年1～6月	0	17.4	50.0	28.3	2.2	0	45.1
第26回 27年7～12月	0	18.4	55.1	24.5	2.0	0	47.5
第25回 27年1～6月	0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回 26年7～12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回 26年1～6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0	48.4
第22回 25年7～12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回 25年1～6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回 24年7～12月	0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回 24年1～6月	0	18.2	50.9	23.6	7.3	0	45.0
第18回 23年7～12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回 23年1～6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0	49.5
第16回 22年7～12月	0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回 22年1～6月	0	10.4	39.6	31.3	18.7	0	35.4
第14回 21年7～12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回 21年1～6月	0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回 20年7～12月	0	4.4	24.4	53.3	17.9	0	28.8
第11回 20年1～6月	0	10.6	44.7	38.3	6.4	0	39.9
第10回 19年7～12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0	3.8	53.5
第9回 19年1～6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回 18年7～12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回 18年1～6月	0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回 17年7～12月	0	22	51.2	26.8	0	0	48.8
第5回 17年1～6月	2.5	17.5	27.5	40	10	2.5	40.4
第4回 16年7～12月	0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回 16年1～6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回 15年7～12月	0	10.0	43.3	31.7	15.0	0	37.1
初回 15年1～6月	0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4



質問9 来半期の販売価格見通し<sup>4</sup>

見通し対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	D I 値
今回 平成31年1～6月	0	13.3	71.1	13.3	13.3	0	48.9
前回 30年7～12月	0	10.5	73.7	13.2	0	2.6	49.3
前々回 30年1～6月	0	18.6	69.8	11.6	0	0	51.8
第30回 29年7～12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0	0	62.2
第29回 29年1～6月	0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回 28年7～12月	0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回 28年1～6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0	48.4
第26回 27年7～12月	0	18.4	65.3	14.3	0	2.0	51.0
第25回 27年1～6月	0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回 26年7～12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回 26年1～6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回 25年7～12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回 25年1～6月	2.0	16.3	51	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回 24年7～12月	0	10.4	47.9	35.4	6.3	0	40.6
第19回 24年1～6月	0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回 23年7～12月	0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回 23年1～6月	0	11.1	51.1	35.6	2.2	0	42.8
第16回 22年7～12月	0	12.5	54.2	31.3	2.0	0	44.3
第15回 22年1～6月	0	4.2	39.6	41.7	14.5	0	33.4
第14回 21年7～12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回 21年1～6月	0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回 20年7～12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回 20年1～6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回 19年7～12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回 19年1～6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回 18年7～12月	0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回 18年1～6月	0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回 17年7～12月	0	14.6	48.8	29.3	0	7.3	46.0
第5回 17年1～6月	0	8.1	45.9	40.5	5.5	0	39.2
第4回 16年7～12月	0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回 16年1～6月	0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回 15年7～12月	0	8.6	32.8	48.3	10.3	0	34.9

<sup>4</sup> 販売価格見通しは第2回から実施

質問 10 来半期の雇用見通し<sup>5</sup>

見通し対象時期	不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	D I 値
今回 平成31年1～6月	13.3	35.6	46.7	0	2.2	2.2	64.8
前回 30年7～12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0	2.6	54.7
前々回 30年1～6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0	0	60.5
第30回 29年7～12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0	0	62.2
第29回 29年1～6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0	0	65.7
第28回 28年7～12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回 28年1～6月	0	26.2	64.3	7.1	2.4	0	53.6
第26回 27年7～12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0	2.0	57.8
第25回 27年1～6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0	62.3
第24回 26年7～12月	0	28.6	67.4	2.0	2.0	0	55.7
第23回 26年1～6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0	4.1	55.8
第22回 25年7～12月	0	11.1	77.8	7.4	0	3.7	51.0
第21回 25年1～6月	0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回 24年7～12月	0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回 24年1～6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回 23年7～12月	0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回 23年1～6月	0	6.7	64.4	26.7	2.2	0	43.9
第16回 22年7～12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回 22年1～6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回 21年7～12月	0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回 21年1～6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回 20年7～12月	0	11.1	80.0	8.9	0	0	50.6
第11回 20年1～6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0	4.3	53.9
第10回 19年7～12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0	3.9	58.4
第9回 19年1～6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0	8.4	58.5
第8回 18年7～12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回 18年1～6月	0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回 17年7～12月	0	22.0	61.0	9.8	0	7.2	53.3
第5回 17年1～6月	5.0	5.0	65.0	20	2.5	2.5	47.4
第4回 16年7～12月	0	16.7	72.2	8.3	2.8	0	50.7
第3回 16年1～6月	0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回 15年7～12月	0	8.8	57.9	28.1	5.2	0	42.6

<sup>5</sup>雇用見通しは第2回から実施

質問 11 資金繰りの状況（前半期との比較）<sup>6</sup>

	改善した	やや改善	どちらとも いえない	やや悪化	悪化した	無回答	D I 値
今回 平成 30 年 1～ 6 月	2.2	24.4	62.2	11.1	0	0	54.4
前回 30 年 1～ 6 月	2.6	15.8	68.4	10.5	0	2.6	52.6
前々回 29 年 7～12 月	4.7	14.0	62.8	18.6	0	0	51.3
第 30 回 29 年 1～ 6 月	4.3	17.0	70.2	8.5	0	0	54.3
第 29 回 28 年 7～12 月	2.1	17.0	68.1	12.8	0	0	53.1
第 28 回 28 年 1～ 6 月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第 27 回 27 年 7～12 月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第 26 回 27 年 1～ 6 月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第 25 回 26 年 7～12 月	2.1	10.4	64.6	20.8	0	2.1	48.4
第 24 回 26 年 1～ 6 月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0	51.5
第 23 回 25 年 7～12 月	4.1	16.3	59.2	18.4	0	2.0	51.6
第 22 回 25 年 1～ 6 月	3.7	22.2	51.9	18.5	0	3.7	52.9
第 21 回 24 年 7～12 月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第 20 回 24 年 1～ 6 月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第 19 回 23 年 7～12 月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第 18 回 23 年 1～ 6 月	0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第 17 回 22 年 7～12 月	0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第 16 回 22 年 1～ 6 月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0	44.3
第 15 回 21 年 7～12 月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0	40.7
第 14 回 21 年 1～ 6 月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第 13 回 20 年 7～12 月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0	37.8
第 12 回 20 年 1～ 6 月	0	13.3	48.9	35.6	2.2	0	0.0
第 11 回 19 年 7～12 月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第 10 回 19 年 1～ 6 月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第 9 回 18 年 7～12 月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第 8 回 18 年 1～ 6 月	0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2

<sup>6</sup> この項目は第 8 回から調査を実施。